



芝浦機械グループ CSR報告書

# CSR REPORT 2020

Corporate Social Responsibility Report

## Shibaura Machine

View the Future with You

# Contents

- 2 トップメッセージ
- 3 企業価値・社会価値創造プロセス
- 5 芝浦機械グループのあゆみ
- 7 特集1:環境にやさしい  
プラスチックの開発を支える技術
- 9 特集2:レトロフィットで  
産業の礎を未来へつなぐ

## CSRマネジメント

- 11 コーポレート・ガバナンス／内部統制システム／  
グループガバナンス／リスク・コンプライアンス管理
- 12 情報セキュリティ管理／知的財産の尊重と活用

## CSRの取り組み

- 13 CSRの取り組みテーマ
- 15 SDGsへの取り組み
- 17 事業分野と製品紹介
- 19 グローバルネットワーク
- 20 海外でのCSRへの取り組み

## 社会との共生

- 21 お客様とのかかわり
- 23 調達・取引先とのかかわり
- 24 株主・投資家とのかかわり
- 25 従業員とのかかわり
- 27 地域社会とのかかわり

## 環境への取り組み

- 29 環境マネジメント
- 30 環境会計／環境アクションプラン
- 31 製品の環境配慮
- 32 地球温暖化防止
- 33 事業活動にともなう環境負荷
- 34 汚染防止の取り組み
- 35 グリーンマネジメント
- 36 INPUT OUTPUT グラフ／  
環境責任者ごあいさつ

## 財務・非財務データ編

- 37 財務・非財務ハイライト(連結)
- 38 第三者意見

## 編集方針

芝浦機械グループでは、2000年から「環境報告書」を発行し、2013年からは報告内容を企業の社会的責任に拡大し「CSR報告書」として発行してきました。

本報告書は、芝浦機械グループのCSRの基本的な考え方と、2019年度の取り組み実績、今後の計画をステークホルダーの皆様を提供し、ご理解いただくことを目的として発行しています。

ガイドライン：ISO26000

対象期間：2019年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。

対象範囲：●経済性報告は芝浦機械(株)、国内連結子会社5社および海外連結子会社9社のデータです。

●環境報告は芝浦機械(株)、国内連結子会社5社および海外連結製造会社3社のデータです。

発行時期：2020年12月

## 会社概要

2020年3月31日現在

商号	※ 芝浦機械株式会社 SHIBAURA MACHINE CO., LTD.
本社	静岡県沼津市大岡2068-3
創業	1938年(昭和13年)12月
設立	1949年(昭和24年)3月
資本金	124億8千4百万円
従業員数	連結：3,360名 単独：1,796名
工場	沼津工場 相模工場 御殿場工場 中国工場 インド工場 タイ工場
主な営業拠点	東京本店 千代田区内幸町2-2-2 東北支店 仙台市泉区上谷刈4-8-10 中部支店 名古屋市名東区上社5-307 関西支店 大阪市北区梅田3-4-5 九州支店 福岡市博多区榎田2-3-23
連結対象 子会社	14社(海外子会社9社含む)
非連結対象 子会社	9社(海外子会社8社含む)

※当社は2020年4月に東芝機械から芝浦機械へ社名変更いたしました。

# 新生「芝浦機械グループ」は、皆様と共に価値を創る企業を目指します

## はじめに

平素より、芝浦機械グループへの格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

当社は、2020年4月1日付で、商号を「東芝機械株式会社」から「芝浦機械株式会社」に変更いたしました。

新生「芝浦機械グループ」として、ESG（環境、社会、ガバナンス）の取り組みを、あらゆる事業活動を通じてあらためて強化をしております。芝浦機械グループは、これまで培われた技術・開発力、QCD、営業・サービス力を基盤として、再生可能エネルギー、省エネルギー、環境対応の新素材、生産性向上などの分野を軸に投資推進を行ない、これらを含め、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」で示された社会が抱える問題に対し、事業活動を通じて企業としての役割を果たし、持続可能な社会の実現に向けてさらなる貢献をいたします。

また、ステークホルダーの皆様のご期待やご要望に応え、信頼を得ることが必要不可欠と考え、これからもより一層の企業努力を続けてまいります。

## 中期経営計画

当社は、2020年2月に策定いたしました「経営改革プラン」に基づき、組織再編を中核とした経営改革、成長分野に対応した投資の推進、資本効率(ROE)の向上を目指した財務戦略の実行に取り組みます。

また、2020年3月に策定いたしました「新生『芝浦機械』長期ビジョン2030」に基づき、グローバル製造業が直面する「気候変動と資源不足」、「人口構造の変化」、「テクノロジーの進歩」等のメガトレンドに卓越した技術革新で応え、社会的課題の解決と企業価値向上を両立することを目指しております。これらの施策に取り組み持続的に成長をし、「新たな産業を創造する力」で皆様と共に価値を創る「価値共創メーカー」へと進化してまいります。

## コンプライアンス・内部統制

芝浦機械グループは、『芝浦機械グループ経営理念』に基づき事業活動を行なうにあたって、「芝浦機械グループ行動基準」を定め、コンプライアンス機能と内部統制機能の構築と強化を図ってまいりました。コンプライアンスは経営の大前提であり、国内・海外における企業活動はすべて法令・社内規程・企業倫理などの社会のルールに従って遂行いたします。

私たちがルールを遵守することは、ステークホルダーの皆様の安心・安全・安定の確保につながります。全従業員がこのことに留意し、将来にわたって社会に必要とされる企業であり続けます。

また、高い倫理観と遵法意識の醸成を図るため、従業員教育、内部統制機能の充実に努めてまいります。

グループガバナンスにおきましては、芝浦機械が中心となり、国内外各関係会社を含めたグループ力を引き続き強化し、グループ全体での経営管理を継続して推進してまいります。



芝浦機械株式会社

代表取締役社長 最高執行責任者

社長執行役員

坂元 繁友

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# 芝浦機械グループの 企業価値・社会価値創造プロセス

芝浦機械グループは、国内外の法令や社会規範の遵守はもとより、「経営理念」「行動基準」に基づく内部統制機能の強化、公正かつ適切な事業活動の展開、安全・安心、高付加価値の商品を提供することで社会に貢献し、企業価値の向上につなげています。

また、自社グループの持つ技術力・開発力を発揮して豊かな価値を創造することでお客様のニーズにお応えし、将来にわたり発展し続ける「真のグローバルカンパニー」の実現を目指してまいります。



## 芝浦機械グループ経営理念

**企業理念** わたしたちは、世界中でお客様の価値最大化

### 経営基本方針

#### 時代への適応と革新

わたしたちは、最新テクノロジーを取り入れ、変化を恐れず時代に適応し革新

#### 期待を越える顧客満足

わたしたちは、期待に応えるだけでなく、期待を越えるお客様の満足を実現

#### 基盤づくりで社会貢献

わたしたちは、産業基盤に関わり、あらゆる場所で社会に役立っていることを

#### 人材を育成し次世代へ

わたしたちは、技術と技能を継承し、仕事に対する誇りと責任を持つ人材を

#### 感謝・感激・感動

わたしたちは、お客様・お取引先様・家族に感謝を忘れず、感激・感動の共有

グループ行動基準・グループガバナンス基本

## 芝浦機械グループの技術力・商品

芝浦機械グループの持つ技術力・開発力で、豊かな価値を創造し、創出する各種機械・サービスが、産業の基盤づくりに寄与します。

### 8つの技術プラットフォーム

1. 匠の加工・組立・測定技術
2. 加工機・成形機の設計技術
3. カスタマイズ技術
4. 材料技術
5. 制御・メカトロ・IoT技術
6. 摺動と回転
7. 金型起点の成形加工技術
8. ナノ加工技術

### 研究・開発

R&D  
センター

### 商品・サービス





### 当社グループ製の機械から生まれる製品

芝浦機械グループ製の、各種機械から生まれる製品・サービスで、世界の人々の生活や文化の向上に貢献します。

当社グループ製の機械から生まれる製品(一例)

航空機・高速鉄道・自動車・エネルギー関連・医療機器・携帯端末など

に貢献していきます。

する企業であり続けます。

します。

誇りとしめます。

これからも育てていきます。

を目指します。

方針



### 事業戦略

基本方針  
基本戦略  
各カンパニー・センター施策  
中期経営計画

新たな  
ニーズや期待

## お客様と社会の持続可能な発展に貢献

### 株主・投資家

- 会社情報の適時開示
- 適切な利益還元
- 企業価値の維持、向上

### 環境

- 地球温暖化防止
- 資源の有効活用
- 化学物質管理

### 地域社会

- 工場での事故・災害防止
- 地域活性化への連携・貢献
- 地域文化、慣習の尊重



### お客様

- 期待される品質、性能の実現
- 迅速なサービス提供
- 環境調和型製品の提供

### 従業員

- 人権、多様性の尊重
- 公正な評価、処遇
- 働きやすい職場環境

### 調達・取引先

- 公正なお取引先様選定、お取引
- お取引先様とのCSR推進
- サプライチェーンの構築

# 芝浦機械グループのあゆみ 時代の変遷に対して柔軟に対

## 世の中の動き

1930年～1940年代

- 1937 日華事変(日中戦争)
- 1938 工作機械製造事業法
- 1941 太平洋戦争
- 1945 第二次世界大戦終戦
- 1947 民間輸出再開

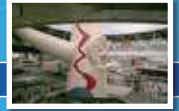


1950年～1960年代

- 1950年代 石炭から石油へ
- 1951 サンフランシスコ講和条約
- 1957 カラーテレビ販売開始
- 1958 東京タワー完成
- 1964 東京五輪

1970年～1980年代

- 1970 大阪万博開幕
- 1973 オイルショック
- 1979 第二次オイルショック
- 1987 世界の人口50億人突破
- 1989 ベルリンの壁崩壊



### 軍需から戦後復興へ

●1938 芝浦工作機械(株)設立  
国の特別法である「工作機械製造事業法」を受け、軍需生産の根幹となる工作機械製造を強化。これにより芝浦製作所(現(株)東芝)から独立運営するために設立された。



12mライフル盤



沼津工場



鶴見工場

●1949 (株)芝浦機械製作所設立

●1949 繊維機械生産

戦後復興産業として当時盛んになっていた繊維産業を後押しすべく、培った技術を用いて繊維機械を生産。民間輸出再開で輸出された日本の高品質の繊維製品は海外で人気の商品となった。



繊維機械

### 高度経済成長(重厚長大)

●1951 ダイカストマシン(国産初の油圧駆動)完成  
●1952 押出成形機初号機完成  
●1953 親歯車ホブ盤完成  
●1956 射出成形機初号機完成  
高度経済成長期を迎え、時代は「重厚長大」へ。当社はこの「重厚長大」のモノづくりを支えるべく、顧客のニーズに応え、さまざまな加工を可能にする製品を生み出していく。



押出成形機 65mm単軸機

親歯車ホブ盤



ダイカストマシン 250HT

射出成形機 20-450S

●1961 (株)芝浦機械製作所が芝浦工機(株)を吸収合併、「東芝機械株式会社」へと商号変更



### 不況を乗り越え海外進出へ

●1974 アメリカ現法設立  
●1977 ブラジル現法設立  
日本にとどまらず、海外へ進出し拡大していく。  
●1977 (株)東芝からNC装置(TOSNUC)、電子ビーム描画装置(EBM)を移管



電子ビーム描画装置(EBM)

●1978 シンガポール現法設立  
●1981 食品機器生産  
オイルショック等の不況時にはビールサーバー等の食品機器の生産にも取り組んだ。



食品機器

●1989 欧州現法設立  
●1989 タイ現法設立  
●1989 台湾現法設立  
世界進出は一部の地域にとどまらず、より広範囲にネットワークを拡大していく。

応し培った技術でお客様の要望に応えてきた当社だからできること。さらなる進化へ…。

1990年～2000年代	2010年～現在
<ul style="list-style-type: none"> <li>●1993 バブル経済崩壊</li> <li>●1995 WTO(世界貿易機関)発足</li> <li>●1998 長野冬季五輪</li> <li>●2005 愛・地球博開幕</li> <li>●2008 リーマン・ショック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2012 東京スカイツリー開業</li> <li>●2014 リニア中央新幹線着工</li> <li>●2015 COP21で「パリ協定」を採択</li> <li>●2016 リオデジャネイロ五輪</li> <li>●2019 平成から令和へ改元</li> </ul>

加工から成形へ、新規事業の創出

先端技術がつながる社会IoT+mへ

- 1996 (株)東芝からスカラロボット業務移管  
  
スカラロボット(移管当時)
- 1998 中国(上海)現法設立
- 1999 本社機構を東京から沼津へ移転  

- 2002 中国工場設立  
 海外での生産拠点として初の工場を建設。  
  
中国工場
- 2005 微細転写装置を開発  
微細転写装置初号機ST50  

- 2008 中国(深圳)現法設立

- 2011 ベトナム現法設立
- 2012 インド工場設立  
 インドの射出成形機企業を子会社化。
- 2012 タイ工場設立
- 2012 インドネシア現法設立
- 2017 (株)東芝が保有していた当社株式を買い取り、東芝グループ離脱
- 2017 IoT+m公表  
 単一事業では成し遂げない「機械メーカーの総合力」を活かしたご提案へ。

# IoT+m

- 2018 ボード型PLC TC11-00を開発  
 機械のIoT化を支援するオープンネットワーク対応機器を開発。
- 2019 IoTプラットフォーム「machiNet」を制定  
 IoT+mコンセプトを実現するプラットフォームを制定。  


- 2019 金属3D積層造形機受注開始  
 削る造形から積層する造形へ。  

- 2019 メキシコ現法設立
- 2019 イタリア現法設立
- 2020 「芝浦機械株式会社」へ商号変更  
 これまでの技術力を基盤に、新たなブランドの創造へ。  
ロゴ  
  
エンブレム  


# 環境にやさしい プラスチックの開発を支える技術

～持続可能な社会に向けた成形機カンパニーの挑戦～

プラスチック製品は、私たちの暮らしに密接にかかわる、不可欠な存在です。一方で、廃棄処分をめぐり、地球環境への影響も懸念されています。長年、プラスチック製品の開発を支えてきた芝浦機械。成形機カンパニーの環境にやさしいプラスチックの製品化への最新の取り組みをご紹介します。

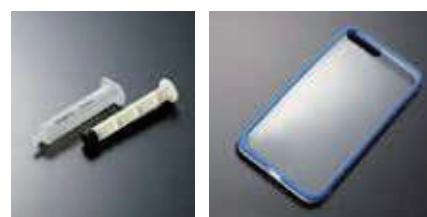


## 私たちを取り巻く、プラスチックの恩恵と課題

スマホ、ペットボトル、自動車等のあらゆる日用品に使用されているプラスチック製品。たとえば、自動車ではバンパーやリアフェンダーなど、多くの部材にプラスチックが使われ、軽量化に貢献してきました。EVに使用すれば、電池を軽量化でき、航続距離を延ばしエネルギー消費量を抑える効果もあります。また、ガスバリア性を利用して、商品パッケージや包装に使用すると食品が長持ちし、食品ロスを抑えることができます。軽くて、丈夫で、長持ち。プラスの面に目を向ければ、金属に代わる環境にやさしい素材と言えます。しかし、石

油由来の素材でその特性ゆえに、使用後は自然分解できない廃棄物として残り続け、海洋汚染などの社会問題を起しているのも事実です。

当社は、こうしたプラスチック製品を作る設備に携わり、製造プロセスの入口部分、材料を作る押出成形機から、出口と言える最終製品を生む射出成形機の製造まで行なっています。プラスチックを取り扱う企業としての使命から、新製品を開発するお客様には、課題解決にお応えするとともに、環境保全の視点からつねに新しい工法を提案してきました。



## すべての製造プロセスで、徹底的にムダを省く

押出成形機は、原料である樹脂を混練し、シート、フィルムなどのプラスチック材料を製造しますが、その間に何段階も工程があるのが一般的です。当社の二軸混練押出機では、前工程を省略し、シート、フィルムを直接製造することで、ペレット化や乾燥の工程を無くし、省スペース・省エネルギーを図ることができ、樹脂劣化も抑えられます。さらに、製造途中には端材が生まれるものですが、単純に廃棄することはせず、多層成形技術によって材料の内部に取り入れるなど有効利用を進め、廃棄量を削減しています。

射出成形機は、押出成形機で生まれたペレットをもとに最終製品を作る

プロセスを担います。2000年代に起きた原油価格高騰以降、省エネの観点から軽量化へのニーズは年々高まり、金属に代替できる強度を持ちながら、より軽量化を進めるといった二つの条件が求められています。そこで、当社が提案しているのが、微細発泡成形技術です。スポンジのように、樹脂内に100ミクロン(0.1mm)以下の微細発泡セルを均一に発生させ、プラスチック製品に成形するもので、自動車分野やOA機器を中心に全世界で普及が進んでいます。製品質量を軽減できるとともに、衝撃吸収効果、遮音、断熱効果を向上することができます。



射出成形機の微細発泡成形例





## リサイクルから新素材の考案へ、新素材の最前線

今、世界中で注目されているのが、生分解性を持つプラスチックやプラスチックに代わる新素材の開発です。当社は機械メーカーとして、これらの新素材を製品化する上で、大きな役割を担っています。

注目される新素材のひとつが、炭酸カルシウムなどの無機物を50%以上含む複合材料。素材メーカーが開発を進めている素材で、一般的にはストーンペーパーと呼ばれ、紙やプラスチックの代替用品となります。原料は石灰石で地球のいたるところにある自然素材です。粉碎した炭酸カルシウムとポリプロピレン等の熱可塑性樹脂により、均一に分散させた熔融状態の複合体を製造します。当社は素材メーカーと協力し、何度もテス

トを繰り返しながら、薄物用延伸フィルム製造装置を実現しました。

もうひとつの注目素材は、植物由来の素材、セルロースナノファイバー(CNF)です。木材の主成分セルロースから抽出した繊維状の材料で、鋼鉄の5分の1の軽さで5倍以上の強度があります。官民連携で製品化に取り組んでいますが、多くの処理工程が必要なため、高コストが課題です。当社では、素材メーカーと共同で開発を進め、二軸押出機を用いた一貫製造プロセスや複合樹脂化技術により生産性を向上し、実用化を加速させています。

環境にやさしいだけでなく付加価値を高めた素材へ。リサイクルから新素材の考案への取り組みを下支えています。



※詳細につきましては当社ホームページ『プレスリリース』をご覧ください。

薄物用延伸フィルム製造装置について

<https://www.shibaura-machine.co.jp/jp/NEWS/press/20191224.html>

セルロースナノファイバー関連技術開発について

<https://www.shibaura-machine.co.jp/jp/NEWS/press/20200820.html>



## 新技術の実現・社会での活用に向けて、工場全体を進化させる

このような画期的なプラスチックの新製品や新素材も、研究段階でとどまっていたり、高額で一部の人が使えるだけならば意味がありません。世の中に普及させ、誰もが使える社会実装を旨とするには、低コストで量産化できる製造プロセスの実現が不可欠です。

そのために当社が取り組んでいるのが、一台一台の機械の効率化だけではなく、工場全体の効率化です。IoTプラット

フォーム「machiNet」では、デジタル化した機械情報を一元管理し、設備機械の状態や作業者の情報の見える化を進め、生産性を向上させます。また、新たな取り組みとして当社のホームページ上に「デジタル・ツイン・ファクトリー」を開設しました。これまでの製品ごとに分かれていた事業部制から複数の製品を取り扱うカンパニー制へと組織を変更したことで、製造プロセスの上流から下流まで携わり、シナジー効

果を一層高めました。

CO<sub>2</sub>削減、海洋汚染防止にも貢献し、SDGsゴールに直接つながる環境にやさしいプラスチック製品や新素材の開発。製造プロセスを担う機械メーカーとして、課題解決のために何が提案できるか。お客様とともに、新技術を社会で実際に活用できるようにすることを旨として挑戦を続けています。



# レトロフィットで 産業の礎を未来へつなぐ

～長寿命化を目指す工作機械カンパニーの使命～

自動車、航空機、造船など、世界の基幹産業を支える工作機械。持続可能な社会に向けて、長寿命化に貢献するレトロフィットが注目されています。工作機械メーカーとして実績を積み上げてきた芝浦機械は、この分野でも先駆的な取り組みを行なっています。



## レストアからレトロフィットへ、時代の大きな潮流

建築業界や情報産業など、多くの分野で耳にするようになったレトロフィット。「Retroactive refit」を語源とした技術用語で、劣化した機械や装置を再生することを意味します。

では、修理や改良などのレストアとは何が違うのでしょうか。工作機械では以前から設備の機能維持のため、精度や機能を新品同様に復元してきました。しかし、レトロフィットでは、躯体など今ある設備をできるだけ使い続けながら、先端技術や最新設備を導入。新旧設備のマッチングを図り、最新鋭機としてバージョンアップします。長寿命化を図り、廃棄物を抑え、機能も進化させる。環境面

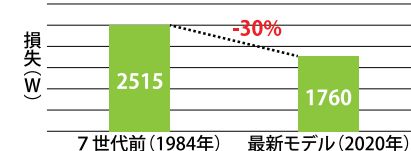
はもちろん、技術革新の面からも貢献度の高い取り組みと言えます。

当社は、1970年代からレトロフィット事業をスタート。90年代には大型工作機械を手がけ、2000年代から海外展開も積極的に行なっています。大きな節目は、80年代にマニュアル機に代わって普及したNC(数値制御)装置です。効率化や省力化に役立つ一方で、電気品のため劣化スピードも早く、また新製品になるほど省エネ性能が高まります。東日本大震災以降、電気使用量の削減は社会的な課題。NC装置の更新を契機に、レトロフィットへの期待がますます高まっています。

### ■レトロフィットの役割



### ■NC装置(全体)の消費エネルギー比較



## 海を渡る、数十トンクラスの大型工作機械

当社は、さまざまな工作機械を手がけていますが、中心はプラノミラーと呼ばれる大型工作機械です。高さは10m以上、総重量100トンを超える場合も珍しくありません。

韓国での事例(写真)を挙げると、このプラノミラーは大型タンカーなど船舶用エンジンを作る工作機械で、ドラム缶ほど巨大なピストンが入るハウジングの加工も行なってきました。ドイツ製の工作機械でしたが、20年以上の使用期間を経て劣化が激しくなり、レトロフィットを実施。基礎部分はそのままで、ドリルなどを取り付ける主軸頭を当社製に更新し、回転数は以前の3倍に向上しました。さらに主軸頭を支える

クロスレールの新製とコラムを延長し、NC装置も省エネタイプの最新機種に交換。主軸頭のアタッチメントを自動で付け替えられるように改良し、特殊形状での加工範囲を広げています。工期はほぼ1年。主軸頭だけで数十トンに及ぶため、国内で生産し、陸路と海路で運搬、韓国の工場を組み上げました。

このレトロフィットにより、お客様の加工時間は以前の約半分に短縮でき、大幅な生産性向上につながっています。また、基礎から新設する場合に比べてコストは約3分の1に削減。廃棄物も必要最小限に抑え、廃棄に関わる費用も軽減することができました。



レトロフィット前



レトロフィット後



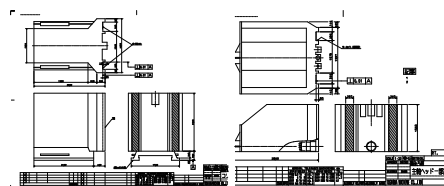
## オールメーカーに対応し、きめ細かくヒアリング

先のレトロフィットの事例のように、当社では自社製だけでなく、国内・海外問わず、すべてのメーカーのレトロフィットに対応しています。他社メーカーの工作機械では、製造元ではないため、現地調査を入念に行ない、機械内部まで細かく実測し、図面を書き起こすところから始めます。また、製造中止になった機械も自社製品で補完し、丁寧なヒアリングを通してオペレーターの使いやすさにも配慮した改良を行ないます。

オールメーカーへの対応は、歴史的な経緯があります。1970年代まで、大型の工作機械といえばドイツやスイスなど外国メーカーの独壇場。外国製を使用している場合、部品の一部が故障しただけで、

海外から装置を取り寄せなければならず、その間稼働停止を余儀なくされます。日本の産業を担う国内メーカーにとって、部品調達を国産化し、国内で補修や改良を行なうことは、悲願とも言えました。

1938年の会社設立以来、工作機械のパイオニアとして信頼を得てきた当社にとって、その要望に応えるのは重要な務めです。NC装置などの電気品だけでなく、静圧技術など大型機特有のコア技術、鋳物工場での主要部分の鋳込み、製缶溶接技術など製造過程に必要なすべての技術を揃え、オーダーメイド製品の経験を持つ当社だからこそできる対応と評価されています。



5つ同時に加工できるスイス製の機械。製造元では生産中止になり、レトロフィットで再生された。



## 故障を予知し、50年を超えるライフサイクルへ

工作機械のライフサイクルを考えた場合、導入後10年ほどはメンテナンスで対応し、25年ほどはメンテナンスとレトロフィットが共存。さらに寿命を伸ばすためには時代に合わせた機能向上が不可欠で、レトロフィットが求められます。1960年代に生産された工作機械が、半世紀を経て蘇り、いまでも現役で活躍しているケースもあります。

機械の長寿命化には、日頃のメンテナンスもカギとなります。当社が新

たに取り組んでいるのが、IoTプラットフォーム「machiNet」を駆使した予防保全です。工作機械に振動・温度を計測できるマルチセンサを取り付け、リアルタイムにデータを収集・解析。人が感知できない微かな振動の変化までキャッチし、トラブルや故障に至る予兆を知らせます。これによって、事前に不具合箇所を特定し、代替品を用意してダウンタイムを回避。機械も、人も、過酷な条件から解放し、安定した稼働を

支えます。

工作機械カンパニーでは、組織改編により、営業部隊を備えたレトロフィット部門をさらに拡充しました。長寿命化、産業廃棄物の削減、技術革新の基盤づくりなど、SDGsのゴールだけでなく、働き方にも貢献するレトロフィットへ。芝浦機械は、50年後を見すえ、日本の産業を支える取り組みを進めています。



# CSR マネジメント

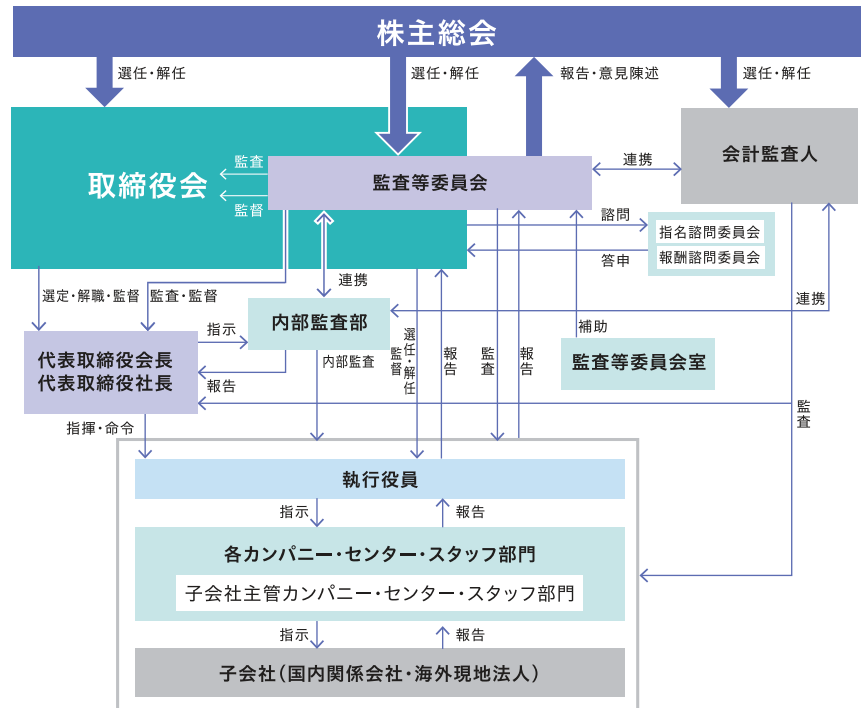
芝浦機械グループは『芝浦機械グループ経営理念』のもと、さまざまな事業活動を行なうために、役員、従業員が遵守すべき『芝浦機械グループ行動基準』を制定するとともに、社会的責任を果たし企業価値を継続的に向上させるため、内部統制、グループガバナンス、リスク・コンプライアンスなどのシステムを構築し、社会的責任を果たすことのできる経営体質の確保を旨としています。



## コーポレート・ガバナンス

芝浦機械グループは『内部統制基本方針』に基づき適切な内部統制システムを整備し、取締役の指名や監査等委員ではない取締役の報酬に関する透明性・公正性を高めるべく、「指名諮問委員会」および「報酬諮問委員会」を設置し、執行役員制度の運用により経営と執行の分離、経営責任の明確化、経営意思決定および業務執行の効率化・迅速化を実現することで、透明性の高いコーポレート・ガバナンス体制の構築しております。

また、当社は、監査等委員である取締役が会計監査人および内部監査部門と連携して、経営を監視する機能を整えております。



## 内部統制システム

芝浦機械グループは、当社グループ経営理念のもと、適正な業務執行のための体制を整備し、運用していくことが重要な経営の責務であると考え、『内部統制基本方針』を定め、当社グループの業務の適正を確保するための体制を構築・運用しています。

また、内部監査部やスタッフ部門が独自に実施する内部監査機能により、内部統制の適正な運用をモニタリングし、内部統制システムの強化および改善に取り組んでいます。

## グループガバナンス

芝浦機械グループは、適切なグループ内部統制システムを構築し、芝浦機械グループの経営効率を高め、グループ経営力を強化するとともに、リスク管理、法令遵守等のリスク・コンプライアンスマネジメントを推進することにより、グループの企業価値の最大化を図ることを目的に『芝浦機械グループガバナンス基本方針』を定め、グループガバナンスの強化および改善に取り組んでいます。

## リスク・コンプライアンス管理

芝浦機械グループは、その事業活動を行なうにあたり、生命・安全とコンプライアンス(法令・社会規範・倫理の遵守)を最優先とすることを基本に、『芝浦機械グループ経営理念』および『芝浦機械グループ行動基準』を定め、日常の事業活動の行動規範としています。また、事業活動を行なうに際しての不確定要因(リスク)を積極的にコントロールし、透明性の高い経営体質を確保するための体制(リスク・コンプライアンスマネジメント体制)を構築、推進および維持することを目的に、『リスク・コンプライアンスマネジメント規程』を定めています。

その他、グループ会社従業員、派遣社員等も対象とした「内部通報制度」や、取引先を対象とした「取引先通報制度」を設置し、通常のルートでは報告されにくい機微なリスク情報についても収集を行なえる体制を導入・運用しています。

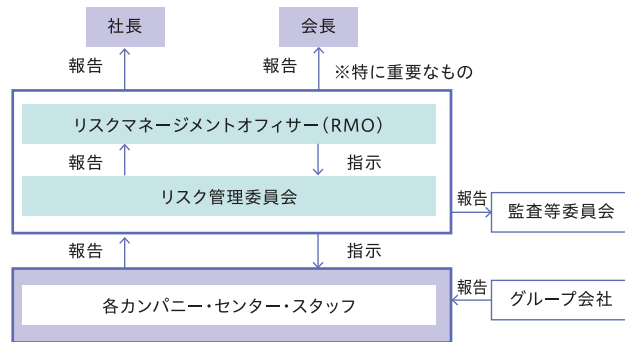


## ▲ リスク・コンプライアスマネージメント体制

芝浦機械グループは、リスク・コンプライアスマネージメント体制の具体的な構成要素として、リスク・コンプライアスマネージメントをつかさどるリスクマネージメントオフィサー(RMO)を任命するとともに、「リスク管理委員会」を設置し、定期的開催しています。

各カンパニー・センター・スタッフ部門では、日常の管理活動の中でリスク予知、予防活動および自己点検等のモニタリングを行なっています。

リスク・コンプライアスマネージメント体制図



## ▲ 芝浦機械グループ行動基準

芝浦機械グループは、『芝浦機械グループ経営理念』に基づき事業活動を行なうにあたって、生命・安全とコンプライアンス(法令、社会規範、倫理の遵守)を最優先することを基本に『芝浦機械グループ行動基準』を定め、一人ひとりが遵守すべき具体的行動を示し、運用しています。

### ● 芝浦機械グループ行動基準 ●

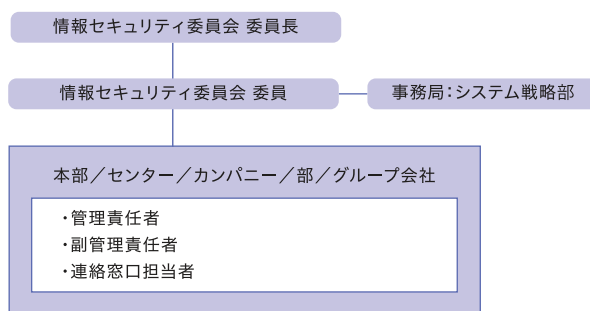
- |                      |               |                       |
|----------------------|---------------|-----------------------|
| 1. 人権の尊重             | 8. 環境活動       | 15. 広告活動              |
| 2. お客様の尊重            | 9. 輸出管理       | 16. 職場環境の整備           |
| 3. 調達活動              | 10. 反社会的勢力の排除 | 17. 情報セキュリティ          |
| 4. 生産・技術活動および品質活動    | 11. 技術者倫理の遵守  | 18. 会社財産の保全・利益相反行為の禁止 |
| 5. 営業活動              | 12. 知的財産権の尊重  | 19. 社会とのかかわり          |
| 6. 独占禁止法・官公庁取引規制等の遵守 | 13. 適正な会計     |                       |
| 7. 贈賄の禁止             | 14. 広報活動      |                       |

## 情報セキュリティ管理

芝浦機械グループでは複雑化・巧妙化するサイバー攻撃などに対応できるよう情報資産に対するセキュリティとBCPの強化施策を継続的に行なっています。情報セキュリティポリシーを全社規程として制定し、さらに、情報セキュリティ委員会を設置することで全社的な推進体制のもと、規程の改訂や自主監査の活動を推進しています。

また、情報セキュリティや個人情報保護に関する日常的に守るべきルールを定期教育として、国内・海外のグループ会社従業員や派遣社員へ実施し情報セキュリティ意識の向上に努めています。

情報セキュリティ管理体制図



## 知的財産の尊重と活用

芝浦機械グループは、特許法、著作権法その他知的財産権に関する法令を遵守し、第三者の知的財産権を尊重することを全社規程で定めています。そのため商品の開発時には、他社の特許権を確認し、社外講演や業界誌への投稿時には、第三者の著作権等を確認しています。更に研究開発で創出された知的財産を特許権等で保護し自社製品への活用を積極的に進めており、国内外で約2,200件の特許権・商標権等を保有しています。

# CSRの取り組み

芝浦機械グループは、自然に恵まれた静岡県東部に主要な生産拠点を有し、また、世界中の国・地域で事業活動を展開しています。豊かな地球環境を未来に残し、社会の持続可能な発展に貢献するため、私たちを取り巻くお客様、株主・投資家、調達・取引先、従業員、地域社会の方々等、世界中のステークホルダーの皆様への関心と配慮を保ちながら、CSR活動を推進してまいります。

## CSRの取り組みテーマ

項目	取り組みテーマ	2019年度主要行動計画
お客様とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●技術</li> <li>●品質・安全</li> <li>●サービス</li> </ul>	品質向上に向けた品質機能展開の活動推進
		IoT共通プラットフォーム(machiNet)の開発および商品化
		国内外顧客への技術および製品情報提供
調達・取引先とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境保全を考慮した調達</li> <li>●適法な調達</li> <li>●反社会的勢力との取引防止</li> </ul>	グリーン調達の推進
		海外拠点に対するCSR調達活動の調査継続
		調達取引先へのCSR方針説明
株主・投資家とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●適時開示</li> <li>●コミュニケーションの向上</li> <li>●評価の確保</li> </ul>	株主・機関投資家との対話の実施
		情報にアクセスしやすいホームページ
		ホームページの掲載内容の充実
従業員とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人財育成</li> <li>●ダイバーシティ</li> <li>●安全・健康管理</li> </ul>	若手に注力した教育の実施
		ダイバーシティへの対応
		安全・健康で、多様な人財が活躍できる組織風土づくり
地域社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会貢献</li> <li>●技術教育への支援</li> <li>●地域との共存</li> </ul>	各種教育活動の実施
		ボランティア、福祉活動の実施
		地域、行政への活動協力
		工場周辺美化活動実施
		外部団体環境活動参加
環境への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境マネジメントの強化</li> <li>●環境負荷低減</li> <li>●地球温暖化防止</li> <li>●汚染防止</li> </ul>	社会への環境貢献度拡大アイテム洗い出し
		SDGsの環境に関連したゴールへの取り組み
		社有車および自家用車における環境負荷低減

○ → 当初の計画を達成 △ → 当初の計画を一部達成

主要行動計画への取り組み	評価	2020年度主要行動計画	ISO26000の中核課題	掲載ページ
製品開発へ品質機能展開の適用推進	△	品質向上に向けた品質機能展開の活動推進	環境 消費者課題	P21～
machiNetによるIoT適用事例の拡充	△	次期machiNetプラットフォームの開発推進		
最新技術と新製品を紹介した「技報」を発行	○	国内外顧客への技術および製品情報提供		
環境調査報告書Bランク以下117社にグリーン調達を推進	○	調達組織再構築による調達CSR強化	公正な事業 慣行	P23
海外2生産拠点と海外7販売・サービス現法で自己評価プログラムによる調査実施	○	グリーン調達定期調査の実施		
生産計画説明会に参加した主要お取引先様224社へ説明	○	EDIシステムの推進		
機関投資家との対話を実施(111件)	○	株主・機関投資家との対話の実施	組織統治	P24
リニューアルしたホームページを完成	○	積極的な情報開示の継続		
リニューアルに合わせたコンテンツの整備とサステナビリティページの作成	○	ホームページの掲載内容の充実		
入社2, 3, 5年目研修の企画、実施	○	オフ/オンライン研修で「自ら考え自ら行動」できる人財育成	人権 労働慣行	P25～
多様な人財の活躍の推進、在宅勤務、育児・介護に関する制度の対応および推進	○	ダイバーシティへの対応		
安全・人財育成のための教育や安全衛生活動に注力	△	心と体の健康づくりを基本に、安全人財、安全・健康な組織風土づくりの継続		
職業体験、工場見学の実施	○	各種教育活動の実施	コミュニティへの参画 および コミュニティへの発展	P27～
献血の実施、TABLE FOR TWO活動の実施工場を拡大	○	ボランティア、福祉活動の実施		
近隣中学校へ中学生ハローワークの出張授業を実施	○	地域、行政への活動協力		
工場周辺美化活動実施(10拠点969名参加)	○	工場周辺美化活動実施		
18団体の活動へ参加	○	外部団体環境活動参加		
新製品の環境貢献度、海外事例をソリューションフェア2019でアピール	△	第2次環境アクションプラン策定(2021年～2025年)	環境	P29～
マイクロプラスチック排出削減への貢献	○	SDGsの環境に関連したゴールへの取り組み		
エコカー導入台数21台、導入率38.2%ノーカーデーを3日実施	○	社有車における環境負荷低減		

## SDGsへの取り組み

芝浦機械グループでは豊かな地球環境、豊かな社会等の持続を旨とし、企業としての役割を果たすため、SDGsで示された内容を理解し、その目標達成のために活動しています。

SDGs目標	主な施策の方向性	SDGs目標	主な施策の方向性	SDGs目標	主な施策の方向性
	●海外生産拡大で地域を活性化		●xEV車普及への貢献 ●環境調和型製品の売上高90%以上 ●CO <sub>2</sub> 削減 ●再生可能エネルギーの利用拡大 ●スマートファクトリーの推進		●環境調和型製品の売上高90%以上 ●CO <sub>2</sub> 削減、廃棄物削減、化学物質削減
	●海外生産拡大で地域を活性化		●海外生産拡大で地域を活性化 ●従業員人財育成		●BCP対策 ●環境調和型製品の開発・販売促進
	●品質保証 ●安全と健康		●新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 協力の金属3D造形技術開発 ●海外生産拡大で地域を活性化 ●製品の長寿命化		●マイクロプラスチック問題解決への貢献 ●新素材成形技術の開発 ●身の回りの使用商品見直し
	●モノづくり人財育成教育 ●社内教育体制の強化 ●地域社会の教育支援実施 ●海外の教育支援実施		●多様な人財の活躍推進 ●公正な人事制度 ●公正な取引		●生物多様性対応
	●多様な人財が活躍できる職場づくり		●水・大気等の環境測定 ●自治体・各種団体との連携		●輸出管理 ●公正な取引
	●富士山の地下水の有効活用 ●環境調査製品の販売		●外部の取り組み・活動への積極的な参画		

### 芝浦機械グループのミッション例

Technology

# 技術

- 温室効果ガスを全製品で削減する技術の推進
- 2020年度比で使用資源を減少させる技術の実現



Work Style

# 人

- サテライトオフィスの設置
- 働き方改革に向けた制度の見直し





### メガトレンド



気候変動と資源不足



人口構造の変化



テクノロジーの進歩

### 技術革新

世界のモノづくりを支える企業として、  
当社は、「グローバル製造業が直面する  
メガトレンド」に卓越した技術革新で  
応え、社会的課題の解決と  
企業価値向上の両立を目指します。

## 新生「芝浦機械」 長期ビジョン2030

詳細については当社ホームページをご覧ください。

[https://www.shibaura-machine.co.jp/documents/jp/product/e\\_topics/20200305\\_1.pdf](https://www.shibaura-machine.co.jp/documents/jp/product/e_topics/20200305_1.pdf)

### 新生「芝浦機械」

従来 …産業機械の単体販売

今後 …「モノ+コト」の付加価値



### Ecology

## 環境

- 環境調和型製品の提供によるCO<sub>2</sub>削減貢献量拡大
- 廃棄物排出原単位削減



## CSRの取り組み

芝浦機械グループは「モノづくり」の会社として、お客様や社会、環境に配慮した製品の提供を目指しています。より環境負荷の少ない環境調和型製品の開発やサービスに積極的に取り組んでいます。

## 事業分野と製品紹介

常にお客様に寄り添い、ニーズに合った商品を創出し提供し続けます。また、世界で一番の商品を作り続けるために創業以来、こだわり続けてきた品質への想いや技術継承、進化の歩みを進めています。

さまざまな先進の産業装置を開発・製造する  
**8つの技術プラットフォーム**

基礎となる8つの技術プラットフォームを背景に、さまざまな先進の産業装置を開発・製造。長年培った技術で最適ソリューションを提供します。

無限に広がるテクノロジー

- 多様な用途分野に対応できる  
**加工機・成形機的设计技術**
- インテグレイティブな  
**カスタマイズ技術**
- マシン性能を最大限に活かす  
**材料技術**
- 熱・光・真空を活用した  
**ナノ加工技術**
- 対象材料の理解に基づく  
**金型起点の成形加工技術**
- 高精度を支える  
**摺動と回転**
- 機械群ごとに最適化された  
**制御・メカトロ・IoT技術**
- 一步進んだ精度を実現する  
**匠の加工・組立・測定技術**

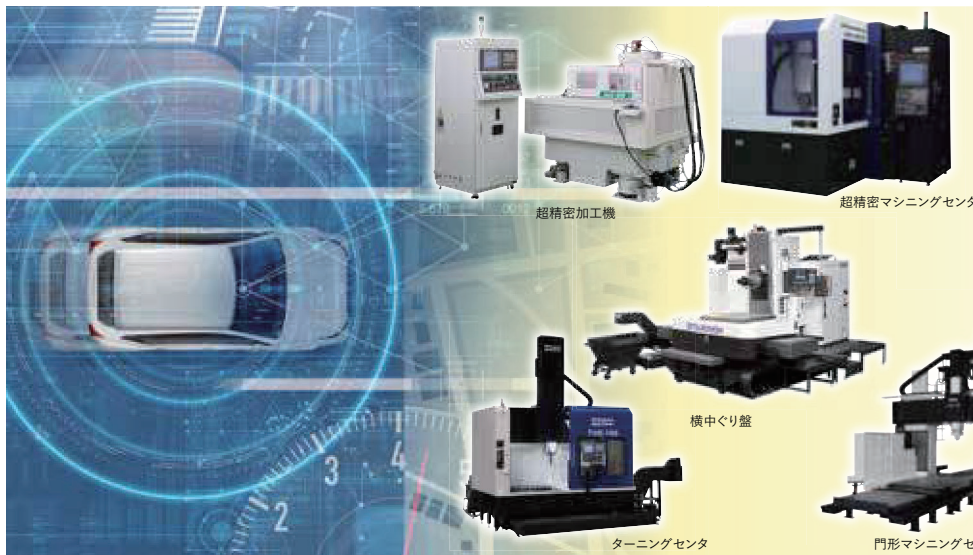
IoT+mを実現するためのプラットフォーム  
**IoTプラットフォーム【machiNet】**

お客様の課題を下記の4つに区分し、それぞれの課題解決を目指します。

人材不足・生産性向上 知能化 自動化	突発的な機械の停止 予知保全 計画保守
生産拠点の分散 一元管理 監視	品質向上・安定化 AI活用の分析 結果の反映

### 成形機カンパニー

- 再生可能エネルギー向けのフィルムや従来プラスチックに代替する新素材の創出・加工に貢献
- 自動車のEV化/軽量化に必要な大型薄肉部品の開発・加工に貢献
- 5G普及に係る基地局のアルミ筐体や機器基盤向けベースフィルムの開発・生産に貢献



### 工作機械カンパニー

- 自動車の智能化・高度化に対応した高精度金型の開発・生産に貢献
- 5Gに対応した電子デバイスの刷新に伴う金型需要に貢献

### 制御機械カンパニー

- 生産性の向上や人手不足の解消を目的とした垂直多関節ロボットや、ヒト協働ロボットの開発・生産
- IoT・AIに対応した制御装置の開発・生産



## CSR の取り組み

各文化や習慣、考え方を尊重した上で、CSR 活動をグローバルに展開し行なっています。

## グローバルネットワーク

芝浦機械グループは、機械メーカーの総合力を最大限活かして、世界中で必要とされる製品のモノづくりに携わり、お客様の事業発展を支えると同時に、世界の人々の生活の向上と、より豊かな地球環境実現のための活動に取り組んでいます。

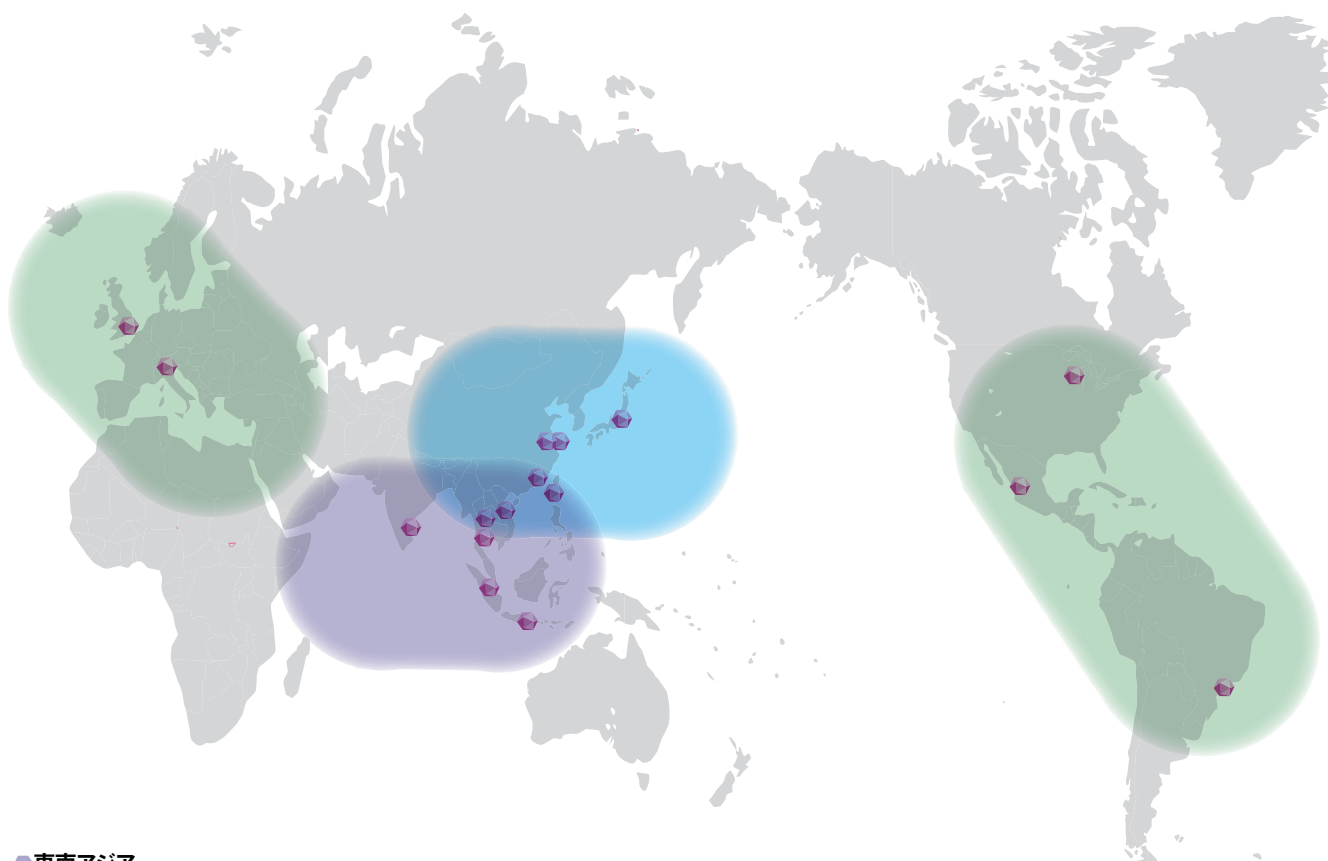
### 海外主要拠点

#### ● 東アジア

SHANGHAI SHIBAURA MACHINE CO., LTD. (中国)  
SHIBAURA MACHINE (SHANGHAI) CO., LTD. (中国)  
SHIBAURA MACHINE (SHENZHEN) CO., LTD. (中国)  
SHIBAURA MACHINE TAIWAN CO., LTD. (台湾)

#### ● 欧米

SHIBAURA MACHINE COMPANY, AMERICA (アメリカ)  
SHIBAURA MACHINE MEXICO, S.A. DE C.V. (メキシコ)  
SHIBAURA MACHINE DO BRASIL COMERCIO DE MAQUINAS LTDA. (ブラジル)  
SHIBAURA MACHINE EUROPE S.R.L. (イタリア)  
SHIBAURA MACHINE UK LTD. (イギリス)



#### ● 東南アジア

SHIBAURA MACHINE (THAILAND) CO., LTD. (タイ)  
SHIBAURA MACHINE SINGAPORE PTE. LTD. (シンガポール)  
PT. SHIBAURA MACHINE INDONESIA (インドネシア)  
SHIBAURA MACHINE VIETNAM COMPANY LIMITED (ベトナム)  
SHIBAURA MACHINE INDIA PRIVATE LIMITED (インド)  
SHIBAURA MACHINE MANUFACTURING (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

## 海外でのCSRへの取り組み

芝浦機械グループは、グローバルでのCSR活動を推進しています。各国の文化や慣習、考え方や人権などを尊重したCSR活動に現地の従業員が率先して取り組んでいます。



タイでは、従業員向けに交通事故撲滅を目的とした安全運転のための講習会を実施し、全従業員が参加しました。この取り組みは継続して実施しています。



タイ工場では、工場団地近隣の学校に通う子どもたちに奨学金とプレゼントを贈りました。



インドでは、世界100カ国以上で6月5日に開催された「世界環境デー」を記念して、敷地内に苗木を植樹しました。この活動は毎年継続しています。



インドでは、日本語での会話能力の習得を促進するために、従業員を対象とした日本語能力試験N5レベルのクラスを隔週で開講しています。23名の熱心な従業員が積極的に受講しています。

# 社会との共生

芝浦機械グループは、経営理念に基づき、さまざまなステークホルダーの皆様との信頼関係を築きながら、公正・誠実で透明性の高い事業活動を目指します。

## お客様とのかかわり

お客様に満足していただける製品やサービスを提供するため、「製品の安全・品質」だけでなく、「アフターサービス」や「企業イメージ」など全般にわたりグループ全体による標準化・改善を積極的に進めています。



## 品質保証

### 品質方針の設定

毎年、『芝浦機械グループ品質方針』を設定し、お客様に信頼していただける製品・サービスの提供に努めています。

#### 2019年度東芝機械<sup>※</sup>グループ品質方針(一部抜粋)

##### 顧客満足最優先の活動

お客様の潜在的・顕在的要求を的確にとらえ分析し、お客様の満足を最優先とした継続的な改善活動に努めます。

##### 営業、技術、製造、サービス品質の向上

「後工程はお客様」の考えに基づき、すべての人が、すべての部門で、自らすべての工程を管理し、その仕組みとやり方の改善を進め、仕事品質の向上を図ります。

##### 法令・規則の遵守

製品品質および製品安全に関する法令および規則などの要求事項を常に把握し、遵守します。

※当社は2020年4月に東芝機械から芝浦機械へ社名変更いたしました。

計画の進捗結果 ▲

### 品質向上に向けた取り組み

#### 品質向上に向けた品質機能展開の活動推進

品質機能展開(QFD:Quality Function Deployment)は、VOC(お客様の声:Voice Of Customer)を製品仕様へ関連付ける、品質保証項目から設計品質を設定するなど製品開発や品質保証に使用される手法です。

芝浦機械グループは、顧客満足、製品品質、仕事品質向上に向けて、開発プロセスへ品質機能展開の適用を推進しています。

#### 安全・品質向上のための勉強会

安全・品質問題の発生防止や解決のため、さまざまな手法を活用しています。故障や事故を引き起こす可能性のある潜在的故障要因を設計段階で摘出し、改善するための未然防止として、「設計FMEA」手法、および「FTA」手法について、定期的に、各カンパニー・センター、関係会社から受講生を募り、外部講師による研修を行なっています。



勉強会の様子



## 技術・サービス

芝浦機械グループは、経営理念に基づき、世界中のお客様に満足いただける製品、システムおよびサービスを提供します。

### IoT 共通プラットフォーム (machiNet) の開発および商品化

計画の進捗結果 ▲

IoT+mのコンセプトを実現するためのプラットフォームとしてmachiNet(マシンネット)を2019年に発表し、これまで機能を充実してきました。machiNetでは、お客様の課題を①人材不足を補う生産性向上、②突発的な機械停止の予防、③分散する生産拠点への対応、④品質の向上・安定化の4つに区分して課題解決に向けたサービスを展開しています。

また、お客様への価値向上を旨とする共創コミュニティとして設立したIoT+mパートナー会も3年目を迎え、ますます活動が活性化しています。

#### パートナー会の活動内容

IoT分野において芝浦機械の対応能力を超えた顧客要求への対応にご協力いただきます。



メンバー企業が協働し情報共有することで、お互いのビジネスの幅を広げます。

### 国内外顧客への技術および製品情報提供

計画の進捗結果 ○

年1回「技報」を発行し、芝浦機械グループの技術および新製品に関する情報をお客様に提供しています。2019年5月に発行した第27号では、技術報告7編と新製品ニュース5編を掲載しました。本書は、「東芝機械\*グループソリューションフェア2019」ご来場者などに配布し、国内外のお客様へ情報発信しました。 \*当社は2020年4月に東芝機械から芝浦機械へ社名変更しました。

#### 各種スクール受講者の声

芝浦機械製品をお買い求めいただいたお客様へ、経験、レベル、目的に応じた各種スクールをご用意しています。

##### 射出成形機

##### ISスクール

●普段段取りをする機会が無いので、最初から一連の流れを学べる講習は大変有意義だった。また、少数かつ自分で作業する機会も多かったため、とても勉強になった。

●一通りの流れを知ることができました。3日間では足りないほど覚えることがたくさんありました。資料を参考にこれからの職場での作業に力を入れたいと思います。

##### 工作機械

##### NCスクール

●操作はもちろんのこと、ためになる方法・アイデアをいただき、大変刺激になりました。社内で教えてもらったことしか知らなかったのがかなり勉強になりました。今後ここで習ったことを活かしていきたいです。

●Gコードの学びを深められたこと、エンドミルの理解が出来たことなど、製品の品質向上や加工時間の短縮に役立てることができそうです。ありがとうございます。

##### ダイカストマシン

##### DCスクール

●とても丁寧に教えていただいたので分かりやすく良かった。実際に動いているマシンを見ながらの講義も良かったです。

●今回の受講は、マシンについてとても分かりやすく、知らないことも学べたので、とても勉強になりました。

##### 産業用ロボット

##### ロボットスクール

●ロボット言語ではVBAをやっていたこともあり、理解しやすいと感じました。専門用語なども詳しく説明されていてアームの概要を理解しやすかったです。

●説明が丁寧で分かりやすかったです。シーケンサを扱う上でロボットがどのように動くかを考える基礎になると思います。





## 調達・取引先とのかわり

芝浦機械グループの調達部門はCSR調達を推進するために、環境保全、調達基準、遵法を3大要素として取り組んでいます。

### ▲ 芝浦機械グループの調達方針

計画の進捗結果 ○

芝浦機械グループは、調達関連法令や社会規範などを遵守した公正な取引を通じて、調達お取引先様と信頼関係に基づく調達活動を行なっています。

さらに、新規のお取引にあたっては、「調達CSR」へ同意したお取引先様を優先し、取引を実施しています。

また、2019年度は生産計画説明会に参加した主要お取引先様224社へ調達CSR方針を説明しました。

### 調達基準

人権に関する国際規範を理解し、基本的人権を尊重することをはじめ、調達活動の基本方針などを定めた『芝浦機械グループ行動基準』に則り活動しています。

調達活動に関する手続きは、『購買管理規程』に定めて所定の調達部門が実施しています。

『芝浦機械グループにおける資材調達方針』は、ホームページをご参照ください。

<https://www.shibaura-machine.co.jp/jp/company/shizai/index.html>

### ▲ 調達遵法への取り組み

計画の進捗結果 ○

遵法対応は『購買管理規程』に調達活動の基本を定め、全グループ会社従業員に遵守を徹底しています。

2019年度は海外2生産拠点と海外7販売・サービス現法に自己評価プログラムによる調査を実施しました。

### 下請法への対応

下請取引の適正化を推進するため、下請法内部監査と教育を国内グループ(13部門)に実施しています。

また、外部講師による社内教育を行ない、調達部門だけでなく、関係部門にも教育を行ないました。



### 教育と監査

- 社内遵法教育の実施  
(年3回実施 134名参加)
- 調達遵法eラーニング  
(国内グループ会社 年1回実施)
- 社外講習会などへの参加(都度)

### ▲ グリーン調達

芝浦機械グループは、「“かけがえのない地球”環境を、健全な状態で次世代に引き継いでいく」という考えにたち、環境負荷の少ない製品・部品・材料・原料の調達(以下、グリーン調達)を推進しています。

環境に関しては『グリーン調達ガイドライン』を制定し、芝浦機械グループの方針と調達にかかわる評価・判定基準を定めています。『グリーン調達ガイドライン』は2018年10月に改訂し環境関連物質リストの見直しと追加を行ない、最新の環境に配慮した調達活動をサプライチェーン全体で実施しています。

### 環境保全活動を推進している お取引先様からの調達

計画の進捗結果 ○

環境保全に対する活動は、お取引先様の自主的活動であることを基本としますが、必要に応じ改善活動の支援をしています。2019年度は環境調査報告書Bランク以下117社にグリーン調達をアドバイスしました。

### リスク管理

全社リスク管理の中で、リスクマネジメントを実施し対応しています。

### 取引先通報制度

『取引先通報制度』をホームページに設けています。

<https://www.shibaura-machine.co.jp/jp/company/shizai/partnerline.html>

### グローバル調達

海外生産拠点が保有する調達情報を一元化し、納期・品質・価格において、最も適した調達品を特定するための仕組み「グローバル調達ネットワーク」を構築しています。東アジア、東南アジア市場において「地産地消体制」を確立し、「最適調達網」を活用することで、原価低減を図ります。

### EDIシステムによる環境活動推進

EDI(電子データ交換:Electronic Data Interchange)による取引を推進することにより、ペーパーレス化、郵送量の削減、調達業務のスピードアップを実現しています。





## 株主・投資家 とのかかわり

さまざまな情報発信・相互交流を通じて、株主・投資家の皆様に芝浦機械グループをご理解いただくよう努めています。

### 機関投資家との対話機会の拡充

計画の進捗結果 ○

機関投資家の皆様を対象に、芝浦機械グループの持続的企業価値向上を目的としたIRミーティングを決算発表後に適時実施しています。

2019年度は投資家の関心の高いセパレータ製造装置を始めとして、当社が扱う製品ごとの需要動向を説明し、投資家の皆様に当社の状況を正しくご理解いただけるように努めました。また、役員による海外IRを継続し、海外の機関投資家の皆様に当社への理解深耕に向けた対話を実施しました。このように当社から投資家の皆様へ対話の呼び掛けが奏功した結果、IRミーティングを111回実施し当社の状況をご理解いただくとともにご意見もいただきました。いただきましたご意見は今後のIR活動へ反映させるように努めます。

また工場見学を実施し、実際の生産現場をご覧いただくことで、当社の業態を分かりやすく紹介しました。



### 情報開示の基本方針

芝浦機械は、株主・投資家やお取引先、地域社会などのさまざまなステークホルダーの皆様に芝浦機械グループの現状を正しくご理解いただくために、経営理念、行動基準の開示、決算情報、財務情報など企業情報の適時・適切な開示に努めています。

また、重要な会社情報が生じた際に、迅速・正確・公正な情報開示を行なっています。

### 情報にアクセスしやすい

計画の進捗結果 ○

#### ホームページへのリニューアル

適時・適切な情報開示を行なっていく上で、訪問者が欲しい情報へすぐにアクセスできるように構造の見直しを行ないました。これまでは会社のトップページから各情報のトップページへ飛び、そこから欲しい情報を探す形式でしたが、リニューアル後は各情報分野の見出しから各ページのコンテンツへ直接アクセスできる形式に変更しました。また、更新情報や最新ニュースを各ページの上部に配置し、訪問者が最新の情報へアクセスしやすくなりました。

投資家情報のページではアクセスランキングのコンテンツを追加しました。これにより、訪問者がどのコンテンツに注目しているのかが分かりやすくなりました。

今後も継続して訪問者が掲載情報を活用しやすいようにホームページを構築していきます。

### ホームページ

計画の進捗結果 ○

#### 掲載コンテンツの充実

株主・投資家の皆様に当社へのご理解を深めていただくため、ホームページ上で投資家情報サイトを運営し、市場動向や外部調査などを基に、適時・適切な情報更新に努めています。

2019年度は社名変更による新ブランド確立のためのホームページリニューアルに合わせ、コンテンツの見せ方を整理するとともに、投資家から要望の多かったサステナビリティページを作成しました。

今後も、持続可能な社会の実現に向けた当社の取り組みや最新の活動状況について情報発信してまいります。



従業員との  
かかわり

芝浦機械グループは、「強み」を持った人財を育成する」をコンセプトに、従業員の能力開発、人財育成を通して公正な評価、処遇を行ない、働きがいのある職場づくりに努めています。



人財育成

教育体系

芝浦機械グループは日常業務を通じたOJTのほか、全社共通または職種に応じた専門分野ごとに幅広い教育・研修を実施し、各自が能力を最大限に発揮し、成果につなげることを目指しています。

また、新入社員から役職者・ベテラン社員を対象とした、グローバル人財育成、コンプライアンス教育、技術・技能の向上と伝承、自己啓発などの人財育成にも努めています。

【 若手に注力した教育の実施 】

計画の進捗結果 ○

入社5年間で人財としての骨格を作り上げるため、従来の入社3年目研修に加え、入社2年目・5年目研修を新たに企画、実施。また研修効果をより高め持続させるため、上司・職場の関わりを持たせるとともにそれぞれが研修目的に合わせた課題を設定し、3ヶ月間の職場実践を行ない研修効果の定着を図りました。

- 入社2年目研修：『主体性かつ協調性を持って行動できる人財』を目指し、指示を待つだけではなく自ら考え行動できる自分に変えるために必要なことを学びました。また仕事の姿勢や進め方等を共有し、互いに刺激し合う機会になりました。
- 入社3年目研修：『自己成長に向けて積極的に行動できる人財』を目指し、これまでの振り返りによる自身の強みや成長課題を見いだすとともに、数年後のありたい姿を描き行動に移すことを宣言しました。
- 入社5年目研修：『組織成果に貢献できる人財』を目指し、個人視点から組織視点への転換を学びました。また後輩指導育成の心構えとスキルなどを学ぶとともに、自身の振り返りを通じて今後のやるべきことを明確にしました。



入社2年目研修の様子



入社3年目研修の様子



入社5年目研修の様子

VOICE

入社2年目研修対象者 飯塚 良平

社会人として必要な主体性・協調性をゲーム形式で学びました。ビジネス文章の作成方法や、社外の方の対応の仕方など、今後の仕事に活かせる実践的な学習をすることができました。

入社3年目研修対象者 山口 未来也

先輩方の講話や同期との近況報告を通じて、自分が将来どうありたいか、そのために今できることは何かを考える良い機会でした。

入社5年目研修対象者 薄木 純

入社5年目という自身の立場を再認識できました。後輩育成の考え方や具体的な実施方法、組織全体を見据えた仕事の仕方など多くの気付きがありました。

ダイバーシティとインクルージョンの取り組み

人権尊重の方針

芝浦機械は、『芝浦機械グループ行動基準』を定め、そのもとで基本的人権および個人の多様性を受容し、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現を支援することを方針としています。

- 各国・各地域の法令等を踏まえ、人権に関するさまざまな国際規範を理解し、基本的人権を尊重します。  
また、児童労働、強制労働を認めません。
- 芝浦機械グループにおいて、基本的人権を侵害する行為があった場合には、適切な措置を講じます。  
また、調達取引先においても、基本的人権を侵害する行為が認められる場合は、改善を求めていきます。
- 人権尊重のため、関連するステークホルダーと対話を進めます。
- 創造的、効率的に業務を遂行できる環境を整え、ワーク・ライフ・バランスの実現を支援します。
- 安全で快適な職場環境を実現するよう努めます。



## ダイバーシティへの対応

計画の進捗結果 ○

### 育児・介護に関する制度と活用状況

過去5年間に於いて、女性従業員の育児休業取得率および復職率ともに100%を達成しています。当社では、短時間勤務制度や本人からの申し出によって残業を免除する制度のほか、積立保存休暇の利用目的に「看護」を追加し、ワーク・ライフ・バランスを支える制度を整えています。

制度の拡充、導入により、従業員も有効に活用できるようになりました。2019年度は、男性従業員の育児休業取得者も増加しており、今後も積極的な取得に向け促進していきます。

2016年度より、国内連結子会社5社を含むデータです。

年度	2015	2016	2017	2018	2019
育児休業取得者( )内は男性	3	7(1)	5(1)	9(2)	12(6)
育児休業復職率	100%	100%	100%	100%	100%
介護休業取得者	1	0	0	0	1
短時間勤務制度利用者(育児)	2	5	9	10	9
短時間勤務制度利用者(介護)	-	0	0	0	0

### 育児と両立しやすく長期継続しやすい仕事環境

2019年度の平均勤続年数は18.8年(男性:18.8年、女性:19.6年)<sup>※</sup>であり、長期にわたり腰を落ち着けて働く従業員が多いことが当社の特徴となっています。

退職については、過去5年間の主な要因として若年層の離職が挙げられ、近年増加の傾向にあります。防止策として、キャリア教育の強化等を実施しています。

※芝浦機械(株)のみ

2016年より、国内連結子会社5社を含むデータです。

年度	2015	2016	2017	2018	2019
自己都合退職者( )内は女性	18(1)	35(6)	32(2)	43(7)	30(6)
うち、出産・育児を理由とした退職者	0	1	0	0	0

### 多様な人材の活躍推進

性別、国籍、年齢等にとらわれない人物本位の採用、各人の適性に応じた適材適所の職場配置を推進しています。

2016年より、国内連結子会社5社を含むデータです。

年度	2015	2016	2017	2018	2019
外国人従業員 (国内在籍従業員)	10	11	12	13	15

## 安全と健康

計画の進捗結果 △

安全・健康は経営の基盤であり、当社グループに関わるすべての従事者が安心して働ける職場を構築するため、全グループが一丸となって活動の活性化を図ります。

### 安全衛生活動の展開

安全な職場を旨とし、交通事故や火災等も含めゼロ災害に向け、芝浦機械グループで安全衛生活動に積極的に取り組み、安全・安心な職場環境づくりを推進します。

### 労働安全衛生マネジメントシステムの推進

「安全と健康の確保は企業活動と不可分の関係にあることを認識し、労働災害の防止と健康づくりに努める」との理念により、沼津・相模工場では中央労働災害防止協会のJISHA方式適格「OSHMS<sup>※</sup>」の認証を更新し、グループ各社でも「OSHMS」を水平展開し、安全衛生管理水準のレベルアップを図っています。

※JISHA方式適格労働衛生マネジメントシステム

### 心とからだの健康づくり

芝浦機械グループでは、すべての従業員が自らの心身の健康を維持しながらその能力を十分に発揮できるよう「心とからだの健康づくり」に取り組んでいます。健康診断の有所見者やメンタルヘルス不調者には、産業医・看護師による個別保健指導や個別面談を行なうとともに、全従業員の「心とからだの健康」意識向上のため、健康イベントや各種健康教育を実施しています。



新型コロナウイルス感染症対策として、従業員の健康管理の強化を行なうとともに、手洗い・マスク着用の徹底、対人距離の保持、不要不急の出張禁止、社内イベント等の中止、テレワーク・WEB会議の実施、オフピーク通勤の推進等を行なっています。

### 従業員への安全指導・支援

安全に関わるスタッフは、RST<sup>※</sup>等の資格を取得し、当社グループに関わる従事者に各種教育を実施し、安全意識の向上を図っています。



また、安全担当者だけに限らず選任された監督者を安全人材として育成するため、外部機関の研修会を活用しながら安全担当部門とともに、職場の安全管理や職場環境改善の役割を果たす取り組みをしています。

※労働省方式現場監督者安全衛生教育トレーナー

## 地域社会との かかわり

地域社会との連帯と協調を図るという行動基準に基づき、地域社会へのさまざまな協力活動を行なっています。また、自治体や公益法人、NPOなどが運営している各種協議会へ積極的に参加しています。



## 社会貢献への取り組み

計画の進捗結果 ○

### ぬまづフリーマーケットフェスティバル&消費生活展への参加

『不要となった使える物を、必要とする人へ』。リユースによるエコの意識を高めようと、沼津市主催のフリーマーケットへ静岡県廃棄物協会の会員企業とともに供出品を提供し、売上金を寄付しています。

また、当日開催される「ぬまづエコ活動コンテスト」に協賛し、地球温暖化防止や環境保全への取り組みを応援しています。



### TABLE FOR TWOへの参加

沼津本社では、2018年度からSDGsの新たな取り組みとして、TABLE FOR TWO(以下TFT)へ参加を継続しています。TFTとは、TFTメニューを当社食堂で食事することにより、食事金額に含まれている20円が寄付金として、開発途上国の子どもの給食1食を賄うことができる、開発途上国と先進国双方の人々の健康を同時に改善することを目指す、日本発の社会事業です。この取り組みへの参加は、SDGsの7つの目標に貢献するだけでなく、TFTを通じて従業員にSDGsへの取り組みの重要性を周知することができる、極めて有意義な活動となります。

2019年度は7月から御殿場工場、8月から相模工場も参加しています。第1、3週の金曜日に実施し、3工場食堂合計延べ4,855名参加、97,100円の寄付金が集まりました。

### 献血活動

赤十字血液センターが行っている献血に協力しています。2019年度は、沼津・相模・御殿場工場で各2回実施し、177人が献血に協力しました。



### 資格取得事業への協力

静岡県労働基準協会連合会が実施している各種技能講習では、実技会場の提供、および技術指導員の派遣に協力しています。

2019年度の実績

- フォークリフト運転技能講習 4回
- 玉掛け技能講習 6回
- 床上操作式クレーン運転技能講習 3回
- クレーン運転業務特別教育 3回





## 教育・文化への取り組み

計画の進捗結果 ○

### 中学生職業体験

未来の「モノづくりの担い手」となる子どもたちの、望ましい勤労観、職業観を育む体験活動の場を提供しています。

2019年度は近隣中学校の学生2名が2日間の体験学習に参加しました。



### 蔵前理科教室

児童の理科に対する興味を呼び覚ますことを目的として活動している蔵前工業会は、全国で科学原理をテーマとした寺子屋方式の出前理科教室を開催しています。「くらしか」への支援を通じて、未来の科学者たちを育む活動を支援しています。



当社OBが講師を務め、子どもたちが光の性質について実際に目で見て体感しながら学び、仕組みを理解しながら偏光フィルムを使って万華鏡を作るなど楽しく学びました。

### 中学生ハローワーク 出張授業を実施

キャリア教育の一環として行なわれる教育に当社も講師として参加しました。さまざまな職種の方々が講師として参加しており、当社はモノづくりの会社として、実施中学校出身の当社従業員3人の営業や設計、製造などの仕事内容や、やりがいについて映像で紹介したほか、男女共同参画社会についての当社の取り組みや制度等を紹介しました。



## 環境への取り組み

計画の進捗結果 ○

### 緑のカーテンづくり

6月にゴーヤやキュウリなどを植え、建物内の温度上昇を抑える自然のカーテンを育てています。植物の蒸散作用(葉の表面から水分が蒸発すること)により周囲の気温も下がり、身近な地球温暖化防止対策として毎年継続しています。



### 環境美化ボランティア活動の実施

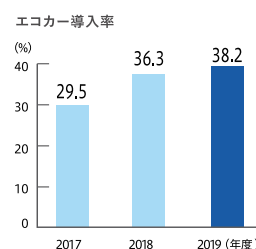
地域社会や環境への貢献、美化意識の向上を目的とした工場周辺地域の清掃活動を、毎年実施しています。2019年度は、関係会社を含む10拠点で、従業員とその家族969名が参加し、清掃活動に取り組みました。



### 社有車および自家用車における環境負荷低減

2019年度は、新たに21台のエコカーを社有車に導入し、芝浦機械グループのエコカー導入率は38.2%となりました。

5月にはノーカーデーを3日間設定し、自家用車の利用の自粛と公共交通機関の利用を呼びかけました。今後も環境負荷の低減に取り組む予定です。



# 環境への取り組み

芝浦機械グループは、経営理念・行動基準に基づき、企業の社会的責任（CSR）として、法令遵守・環境調和型製品の提供・事業活動に関わる環境負荷低減に取り組み、持続可能な環境づくりに積極的に貢献します。

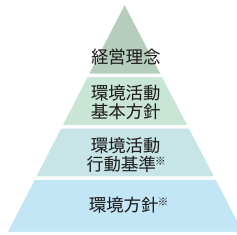


## 環境マネジメント

### 環境活動基本方針

1. “かけがえのない地球”を、健全な状態で次世代に引き継いでいくための環境づくりに積極的に貢献します。
2. 環境に関する国際規格、関係する法令、協定、指針、自主基準等を遵守します。
3. 優れた環境調和型製品の開発・提供を通じて社会に貢献します。
4. 事業活動に関わる環境への負荷の低減、生物多様性の保全等に積極的に取り組みます。

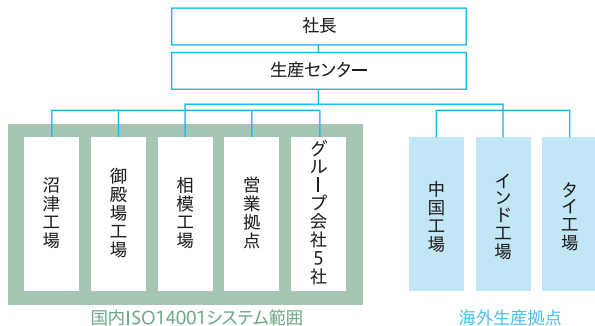
※環境活動行動基準・環境方針についての詳細は当社ホームページをご参照ください。



### 環境マネジメントシステムの強化

グループ一体となった取り組みを実施するため、国内では1996年に沼津工場でISO14001の認証を取得して以来、生産拠点、営業拠点、グループ会社についての認証範囲の統合と拡大を進め、環境マネジメント体制の強化を図っています。海外では2004年に中国工場、2012年にインド工場、2015年にタイ工場が認証取得しました。

またISO14001 2015年度版の移行にも取り組み、2017年度に完了しました。



### 環境マネジメントの有効活用

芝浦機械グループではISOの要求事項を運用レベルまでブレイクダウンした「環境マニュアル」を規定し運用しています。

2019年度はマイクロプラスチック問題解決への貢献活動として、工場で使用するマイクロビーズ入り手洗い洗剤やプラスチックストロー、マドラーの切り替えを完了しました。また、使用済みハブラシをリサイクルする活動として「ハブラシ・リサイクルプログラム」への参加を開始しました。その他、相模工場では神奈川県が取り組む「かながわプラごみゼロ宣言」に賛同し活動を開始しました。今後も環境マネジメントシステムを有効活用し、事業活動に沿った環境活動を進めていきます。

### 環境法令の遵守と苦情対応

各生産拠点では、法律の規制よりも厳しい自主管理基準値を設定し、大気・水域への有害物質排出による環境事故を未然に防ぐよう努めています。

また、環境施設の巡視による管理状況の確認を行なうとともに、届出や報告、基準の遵守などは、内部監査時、適正に行なわれていることを確認しています。

法規制の動向などについては、グループ内で情報を共有しています。2019年度は、気候変動適応法、改正土壌汚染対策法、フロン排出抑制法等の法令改正を共有化しました。加えて、法令の管理レベルの向上を図るため、環境関連資格の積極的な取得にも取り組んでいます。

2019年度はグループ内で近隣住民の方より騒音に関する苦情が2件寄せられましたが、どちらも適切に対応し、以降苦情はありません。

### 環境内部監査

各カンパニー・センターで監査チームを結成し、相互監査の形式で約2ヶ月かけて環境内部監査を実施しています。

内部監査員向けの教育を実施し、監査員の確保、スキルアップに努めています。

2019年度は指摘件数が77件ありました。法令で定められた管理事項の不足が数件あり、遵法義務違反につながる恐れもあるため、2020年度はさらに注意深く、真因に基づいた歯止めがなされているかに重点をおき監査を進めていきます。

### 環境教育・訓練（国内）

階層別教育と職能別教育のそれぞれに対応した教育や訓練を実施しています。

経営層向けとしては外部講師をお招きし、最新の外部状況について講演会を開催しています。2019年度は『プラスチックとESGに関する社会動向と対応』をテーマに講演いただき、社長以下76名が出席しました。

また、工場からの汚染物質の流出など、緊急時に備えた訓練を各部門で実施し、不測の事態に備えています。



環境講演会の様子



## 環境会計

企業の事業活動に関わる環境保全活動のコストと効果を定量的に把握し、企業活動の指針として活用するため、環境会計を実施しています。

2019年度の環境保全コストは、設備投資として96,102千円、費用として1,357,536千円を投入しました。一方、効果額は、2,610千円となりました。

### 環境保全コスト

分野		内容	投資	費用
事業 エリア 内コスト	①公害防止コスト	大気、水質、土壌汚染防止など	0	72,524
	②地球環境保全コスト	温暖化防止、オゾン層保護など	95,996	85,044
	③資源循環コスト	資源の有効利用、廃棄物減量化など	0	93,545
	上下流コスト	グリーン調達、リサイクルなど	0	11,622
	管理活動コスト	監視・測定、環境教育など	0	96,716
	研究開発コスト	環境調和型製品開発など	0	990,680
	社会活動コスト	緑化、情報開示など	106	7,303
	環境損傷コスト	土壌汚染修復など	0	102
	合計			96,102

集計対象：芝浦機械本体および国内関係会社5社 対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日

### 環境保全効果

分野	内容	環境負荷低減量*	効果金額	効果金額の算出方法
実質 効果	エネルギー(原油換算)	502kl	/	前年度に対し、電気料金や廃棄物処理費用などの節約または改善効果金額と有価物売却益の合計。
	廃棄物	338t		
	用水	-140千㎡		
みなし 効果	排水関係 (BOD、SS、油分N-HEX)	38kg		
	大気関係(ばいじん、窒素酸化物、硫酸酸化物)	311kg		
合計			2,610	

\*環境負荷低減量は、2018年度と2019年度の差分。マイナスは、環境負荷の増大を示します。



## 環境アクションプラン

COP21の国際協定締結結果と国内外の動向を参考に、海外生産拠点を含め、2016年から2020年までの5年間の中期目標『第1次環境アクションプラン』と2030年を最終年度とする長期目標を設定しました。中期目標の重点テーマとして、製品の環境貢献の明確化、グローバル対応の強化としました。2019年度の取り組み結果は、以下のとおりとなります。

取り組み項目(指標)	第1次環境アクションプラン		長期目標2030年	
	2019年度	2020年		
環境調和型製品の提供	環境調和型製品による環境貢献(CO <sub>2</sub> 削減貢献量)	24,710(192%)	25,390(197%)	34,410(267%)
地球温暖化の防止	CO <sub>2</sub> 排出量の削減(t/億円)	20.9(▲24%)	19.8(▲28%)	16.5(▲40%)
資源の有効活用	廃棄物総排出量削減(t/億円)	2.64(▲23%)	2.84(▲17.5%)	2.07(▲40%)
化学物質の管理	化学物質排出量削減(kg/億円)	51.9(▲33%)	68.9(▲10.5%)	53.9(▲30%)
グリーンマネジメント	生物多様性保全(生態系ネットワーク)	富士山植樹活動参加	ビオトープ国内各工場・植林	森林育成事業協調
	再生可能エネルギー(未利用エネルギー使用)	太陽光発電で使用量の0.1%以上を発電	使用料の0.1%	拡大(海外を含む)、使用量の3%
	スコープ3の取り組み(上流・下流負荷の把握)	取り組み継続	環境負荷把握(海外を含む)	削減活動
海外	グローバルなEMS構築(海外現法との連携強化)	タイ、インドインフラ調査実施	外部インフラ調査、海外環境内部調査、海外工場環境リーダー育成	
	管理強化と環境負荷低減(管理レベル向上)	3生産拠点で進捗管理	調査、管理規定確立、目標設定	管理強化と削減推進



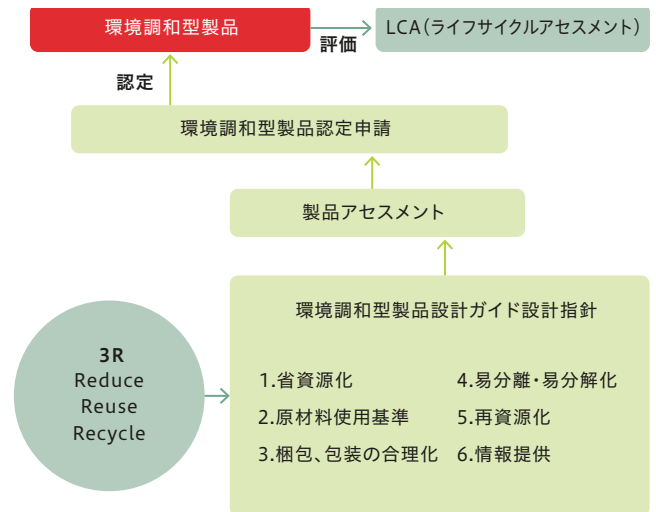
## 製品の環境配慮

芝浦機械グループは、より環境負荷の少ない製品をお客様にご提供するために、環境調和型製品の開発を積極的に進めています。

### 環境調和型製品(ECP)の開発

新製品の開発段階から、環境への影響を事前に評価する「製品アセスメント」を実施し、環境負荷の低減を図っています。技術部門では、設計指針と3Rを考慮した「環境調和型製品設計ガイド」に基づき、開発を進めています。完成後に環境調和型製品認定申請書により評価を行ない、認定を受けた製品が環境調和型製品として登録されます。

2019年度は、39機種が新規登録され、累計登録件数は595機種となりました。



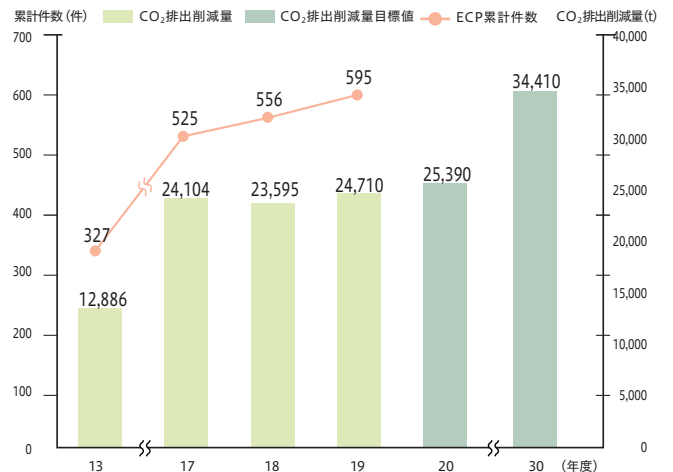
### 製品の環境負荷低減

環境調和型製品として登録されたすべての製品に対し、原材料、製造、輸送、使用、リサイクル、廃棄までの芝浦機械グループ基準によるライフサイクルアセスメント(LCA)評価を行なっています。さらに、一部製品では従来機種との比較を行ない「CO<sub>2</sub>排出削減量」\*を算出しています。

\*従来機種から省エネルギー性能の高い環境調和型製品への置き換えにより削減できたとみなすCO<sub>2</sub>排出量

製品の環境負荷低減への取り組みでは、2020年度の中期目標を「CO<sub>2</sub>排出削減量25,390t」として活動を行なっています。2019年度は環境調和型製品の売上向上などにより、CO<sub>2</sub>排出削減量は24,710tとなりました。製品のさらなる省エネルギー化に取り組み、中期目標達成を目指します。

環境調和型製品登録件数とCO<sub>2</sub>排出削減量の推移



### 製品使用段階のCO<sub>2</sub>排出削減量への取り組み

芝浦機械グループ製品は、長年使用していただける製品が多く、「製品使用段階のCO<sub>2</sub>排出量」がライフサイクル全体のCO<sub>2</sub>排出量の大部分を占めています。そのため、製品の省エネルギー性能を高めて製品使用段階のCO<sub>2</sub>排出量を削減することが、製品の環境負荷低減に効果的です。

#### 製品使用段階のCO<sub>2</sub>排出削減量の評価実施例

##### スカラロボットTHE400

従来機種に対して、モータ容量を削減したことで電力消費量が57%低減できました。その結果、製品使用段階で排出されるCO<sub>2</sub>排出量が0.56t削減されます。





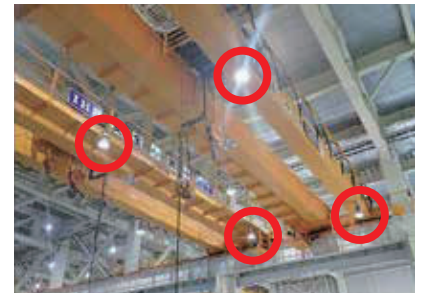
## 地球温暖化防止

エネルギー管理部門は、エネルギー効率のよい設備の導入や更新に向けた省エネチェックをはじめとする環境アセスメントを行なうとともに、各部門に対し、計画的な投資を促し、これまでの取り組み事例や最新の省エネ技術に基づいた適切なアドバイスを実施し、積極的に地球温暖化防止に努めています。2019年度は2013年度比CO<sub>2</sub>売上原単位※24%減の目標で取り組み、結果、24%減を達成しました。

※売上原単位：売上高に対するCO<sub>2</sub>の排出原単位

### クレーンガータランプLED化による電気使用量削減

工場内電灯のLED化は毎年計画的に進めていますが、2019年度には工場内で多数駆動しているクレーンに着目し、ガータランプのLED化にも取り組んだ結果、年間8,832kWh(45t-CO<sub>2</sub>相当)削減しました。

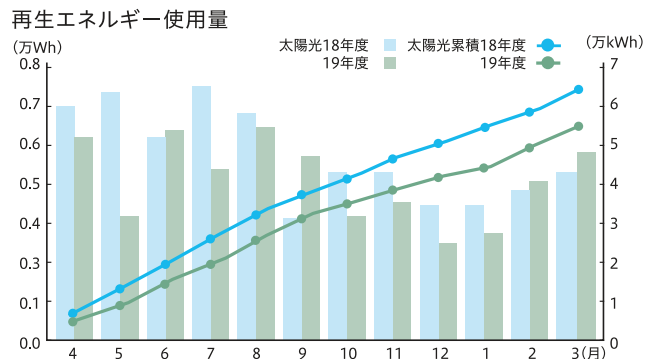


クレーンガータランプ

### 再生可能エネルギーの活用

2017年度から稼働している御殿場テクニカルセンターに設置した太陽光発電装置は、1年間で芝浦機械国内グループの全電気使用量の約0.1%に相当する約5.4万kWhを発電しました。

発電した電力は、御殿場工場で自己消費するほか、緊急時は、緊急本社機能設置場所の非常電源としても利用します。

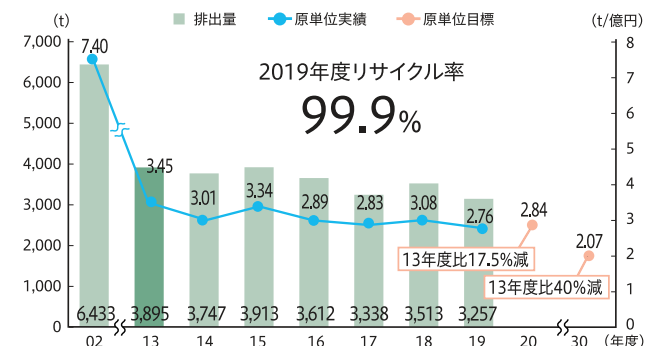
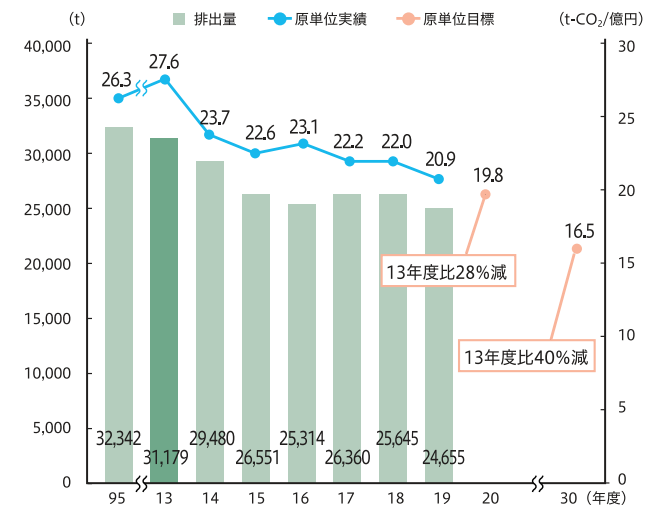


### 資源の有効活用

工場から排出される廃棄物の最終処分量1%以下を目ざすとともに、環境アクションプランでは、2020年は基準年から17.5%の削減を目標としています。

2019年度は鋼くず・切削用廃液の減少で廃棄物排出量は3,257tで、256t減少しました。原単位評価では2.76t/億円となり2018年度の3.08t/億円から10%改善しました。工場保管エリア整流化活動により発生した廃棄物は138tであり社内管理数値としては、この分を差し引いて活動しています。

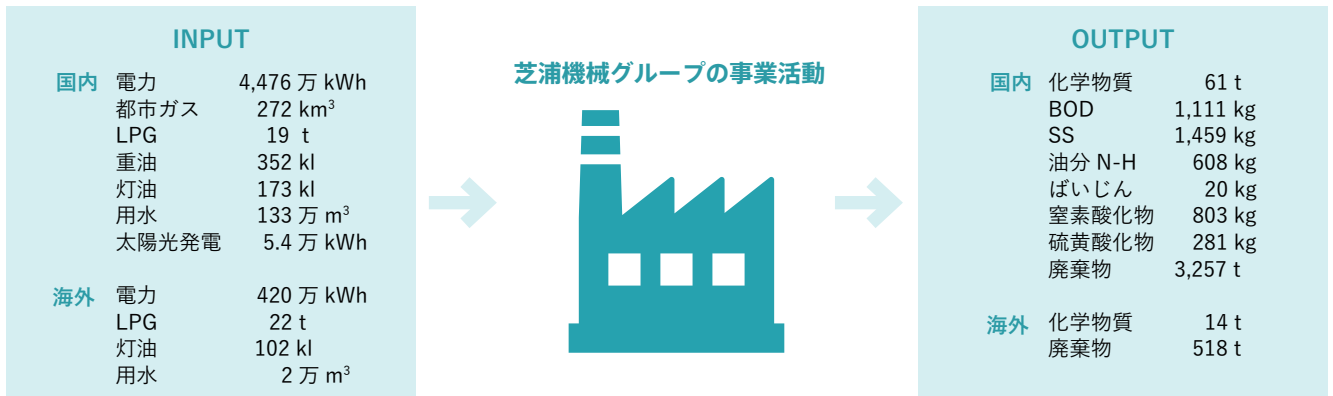
### CO<sub>2</sub>排出量と原単位実績、目標



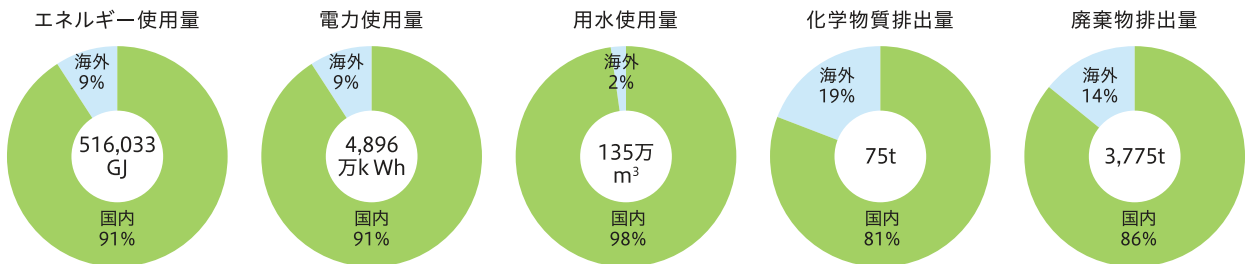


## 事業活動にともなう環境負荷

製品開発、製造、サービス活動など事業活動に伴う環境負荷について、継続的にデータを収集・分析し、環境負荷を低減する取り組みを積極的に行なっています。



### 国内工場と海外工場の環境負荷割合

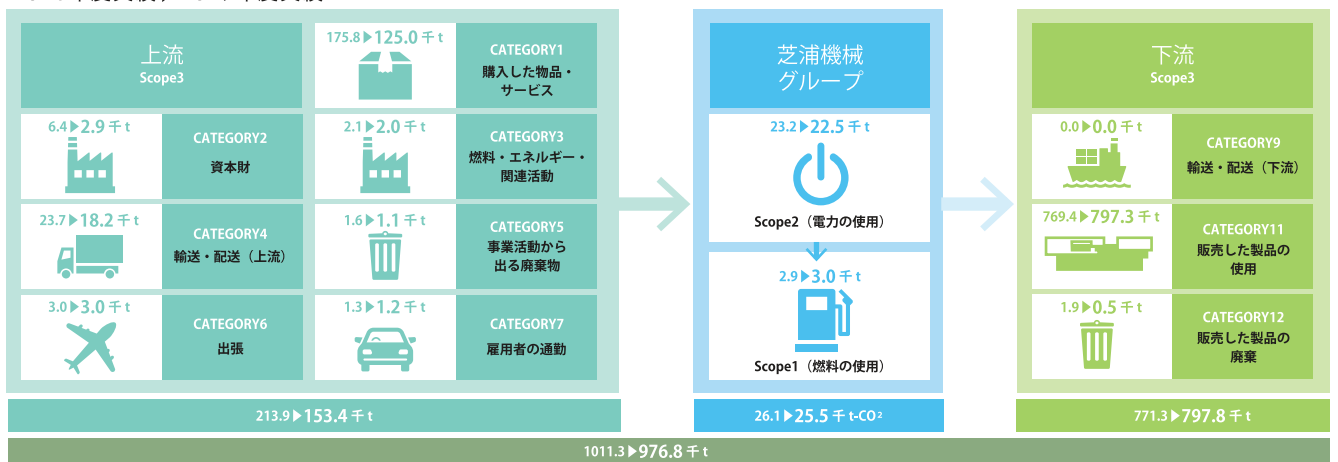


### サプライチェーン全体の環境負荷

2015年度より、環境省のガイドライン<sup>\*1</sup>に基づく算定手法で、サプライチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量の把握、算定をしています。<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン <sup>\*2</sup> 15カテゴリーのうちCATEGORY8、10、13、14、15は業種として該当しません

2018年度実績 ▶ 2019年度実績



## 汚染防止の取り組み

### ▶ プリント基板表面コーティング剤切替による PRTR 物質の削減

芝浦機械グループでは2006年からPRTR物質の削減に取り組んでいます。この取り組みでは、塗装工程での塗料の切替・溶剤の効率的な使用を中心に活動し、2013年には対2000年度比79%の排出量を削減しました。2019年度は関係会社のプリント基板製造ラインで使用していたトルエン含有量79%の表面コーティング剤をトルエン含有量0%のものに転換するなどの取り組みの結果、PRTRは2000年度比92%の排出量を削減しました。

コーティング剤の転換にあたっては、変更前と変更後の性能を比較するための技術資料収集・メーカー打合せ、指定膜厚を決めるための配合率の検証等に時間を要しましたが、関係者の協力で実現することができました。

#### 大気汚染物質

大気汚染物質の排出量は、ばいじん、窒素酸化物、硫黄酸化物とも大きな増減はありませんでした。

各生産拠点では、省エネ活動を継続して実施し、沼津・相模・御殿場工場の鋳物溶解炉、ボイラー等の全特定施設で、排出基準・協定値を下回っています。

#### 水質汚濁物質

水質汚濁物質の排出量の大きな増減はありませんでした。沼津・相模・御殿場工場、不二精機製造所の生産拠点についても排水基準・協定値をクリアしています。

#### VOCの排出

VOC規制対象の沼津工場の塗装施設では排出基準・沼津市届出値をクリアした状況を保っています。静岡県内の光化学オキシダント緊急時対策実施要領にもとづき、協力・連絡体制も構築しています。

#### 騒音・振動・悪臭への対応

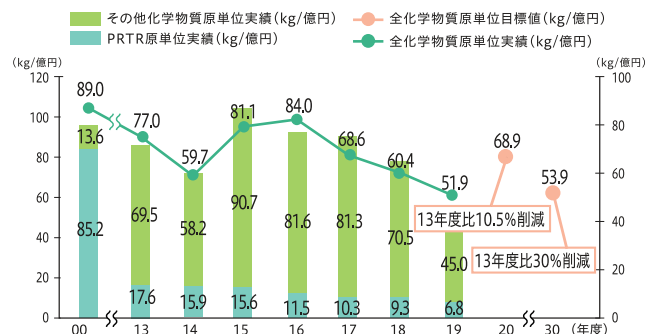
騒音・振動はグループ各社・工場の規制基準をすべての箇所・時間帯ともクリアしました。悪臭は規制されたすべての対象工場境界で基準を満たしていることを確認しています。

#### 土壌・地下水汚染への対応

沼津工場第14工場の六価クロム汚染土壌について、周辺地下水のモニタリングを継続しており、汚染の拡大がないことを確認しています。

### ▶ 化学物質管理

全社をあげて取り組んできたPRTR対象物質削減については2030年度目標値をクリアできたため、今後は監視目標とします。2019年度からは化学物質全体の総量削減をターゲットに取り組んでいます。鉛については、プリント基板等のはんだ鉛フリー化を順次進めており、新製品は全廃しています。



グリーンマネジメント

▲ 生物多様性保全への取り組み

廃棄物の不法投棄撲滅活動

静岡県産業廃棄物協会による不法投棄パトロール、不法投棄撲滅街頭キャンペーンに参加し、ゴミの不法投棄撲滅、廃棄物不法投棄110番のPRを行ないました。



狩野川水系の河川清掃活動・アマゴの放流

狩野川水系水質保全協議会による黄瀬川の清掃活動、桃沢川へのアマゴの放流に参加しました。

▲ マイクロプラスチック問題解決への貢献

計画の進捗結果 ○

ハブラシ・リサイクルプログラムへの参加

使用済みの家庭用ハブラシの回収を始めました。回収したハブラシは、埋立地や焼却所に送られることなく、植木鉢などの新しいプラスチック製品に生まれ変わります。また集めた重量に応じて付与されたポイントは教育支援、地域支援などへ寄付します。



「かながわプラごみゼロ宣言」への参加

神奈川県が取り組む「かながわプラごみゼロ宣言」に賛同し、使い捨てプラスチックの削減、プラごみの分別回収、清掃活動をさらに推進します。

◆ VOICE ◆



芝浦セムテック株式会社 環境測定部 鈴木邦彦

箱根やまなみ林道で不法投棄があり、静岡県産業廃棄物協会のメンバーとして不法投棄パトロールに参加しました。今回、家具やベッドなどを回収し、警察に通報しましたが、今年になって家電等の家庭ごみの不法投棄が増加しています。残念ながら引越など処分が難しく捨てると、安易な考えで捨てられているのではと思います。一人ひとりが、廃棄物に対する意識を持って対応しないと不法投棄はなくならないと感じます。

▲ 社会への環境貢献度拡大アイテム洗い出し

計画の進捗結果 ▲

新製品の環境貢献度、海外事例を東芝機械※グループソリューションフェア2019でアピール

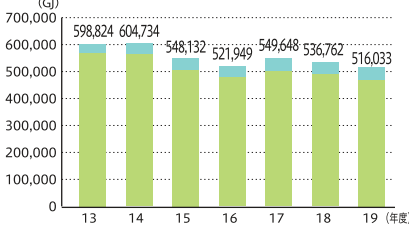
5月に開催した東芝機械※グループソリューションフェア2019では、新製品の環境貢献度・海外での取り組み事例をサイネージで紹介しましたが、社会課題解決への貢献・持続可能な社会醸成への貢献など、それぞれの取り組みが何を目的としているかが不明確でした。今後は取り組みと貢献分野との関係性を明確に表現していきます。

※当社は2020年4月に東芝機械から芝浦機械に社名変更いたしました。

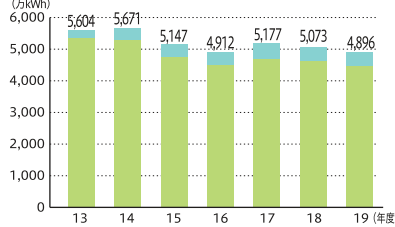


## INPUT OUTPUT グラフ

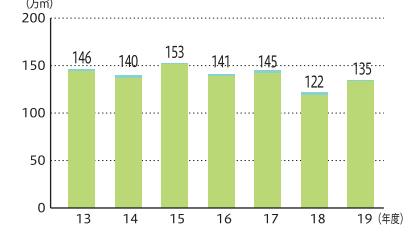
エネルギー使用量推移



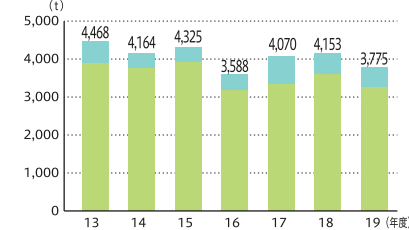
電力使用量推移



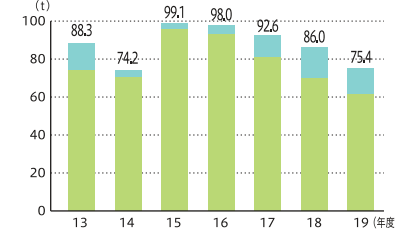
用水使用量推移



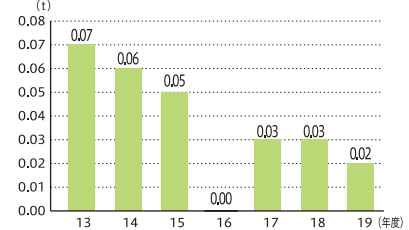
廃棄物排出量推移



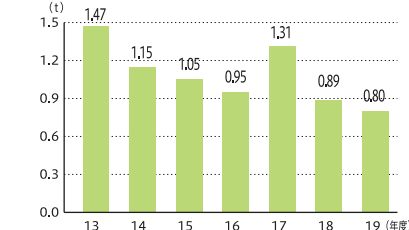
化学物質排出量推移



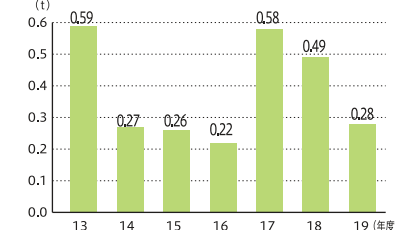
ばいじん排出量推移\*



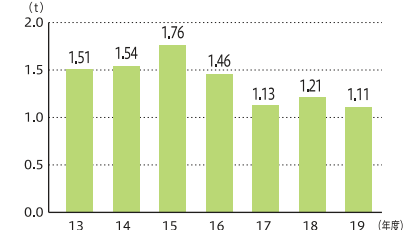
窒素酸化物排出量推移\*



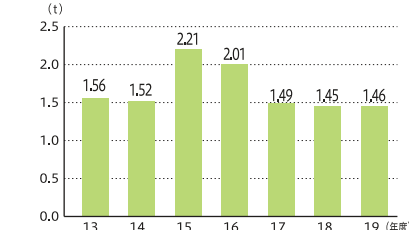
硫黄酸化物排出量推移\*



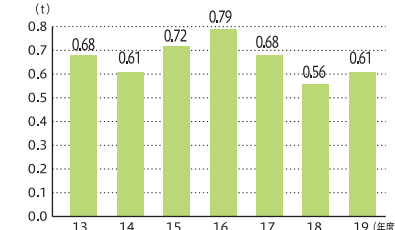
BOD排出量推移\*



SS排出量推移\*



n-ヘキサン排出量推移\*



※国内のみのデータ

### ● 環境責任者ごあいさつ ●

芝浦機械グループは、企業理念・経営基本方針に基づき、企業の社会的責任(CSR)として、「かけがえない地球」を健全な状態で次世代に引き継ぐため、「芝浦機械グループ環境方針」を制定し、環境保全や資源保護に配慮した、自然環境にやさしい企業経営に取り組んでいます。

2050年には魚の量を上回るとも言われている、海洋プラスチックごみですが、その対策には3R(Reduce, Reuse, Recycle)の徹底と廃棄物の適正処理、新素材の開発等への対応が必要です。世界有数の海洋国である日本は、プラスチックの分野でも世界をリードする技術やシステムの開発を通じて、国連が提唱するSDGs目標12の「つくる責任つかう責任」や目標14の「海の豊かさを守ろう」への貢献を念頭に、世界の人々の期待に応えていく責任があります。芝浦機械グループとしても、この状況をビジネスチャンスと捉え、持続可能な企業への変革を全社一丸となって成し遂げていく必要があります。

当社は今後も「機械メーカーの総合力を最大限活かして成長し続けること」で早く、激しく変化する時代において勝ち残り、成長するために従来の考え方や仕事の進め方を大きく変えて、収益力向上への変革を目指してまいります。



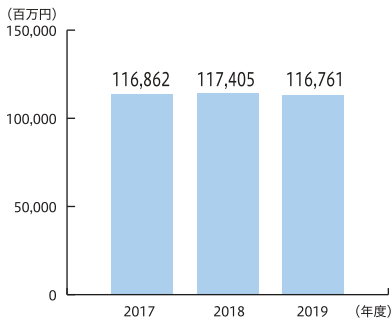
上席常務執行役員  
後藤 英一

# 財務・非財務データ編

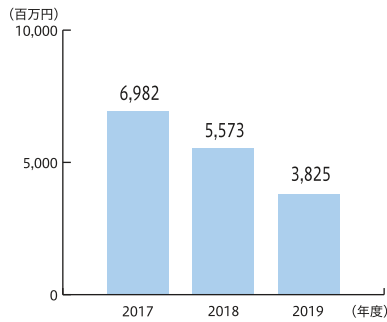
## 財務・非財務ハイライト(連結)

### 財務情報

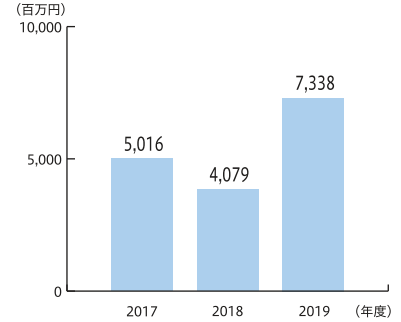
#### 売上高



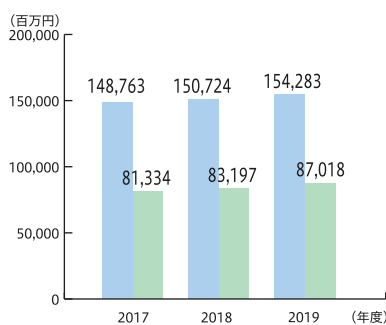
#### 経常利益



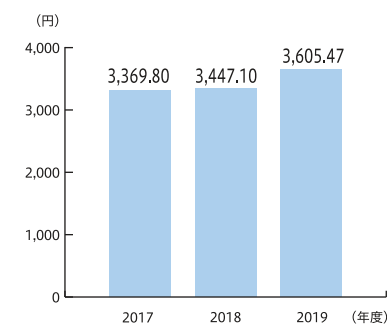
#### 親会社株主に帰属する当期純利益



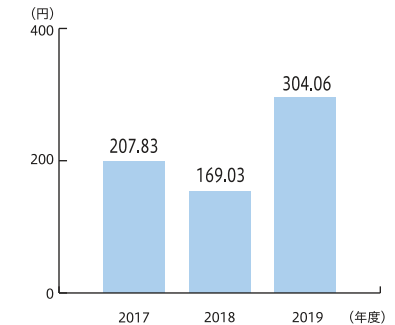
#### 総資産 / 純資産



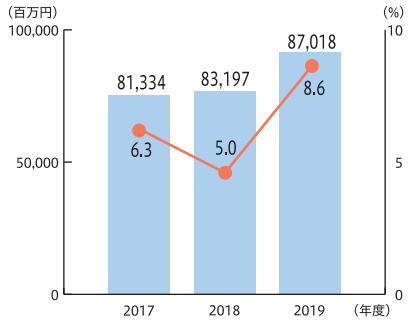
#### 1株当たりの純資産額



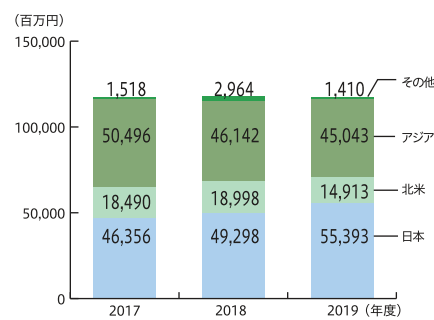
#### 1株当たりの当期純利益



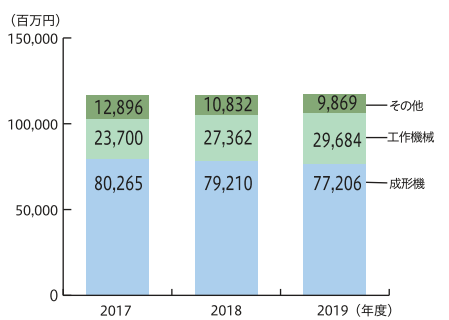
#### 自己資本 / 自己資本当期純利益率(ROE)



#### 地域別売上高

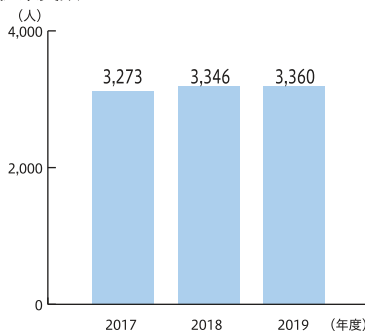


#### セグメント別売上高

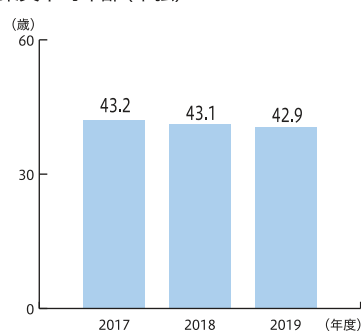


### 非財務情報

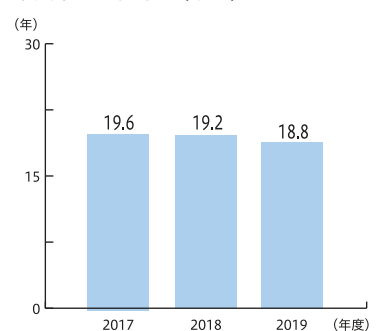
#### 従業員数



#### 従業員平均年齢(単独)



#### 従業員平均勤続年数(単独)



## 第三者意見



株式会社日本総合研究所  
理事

### 足達 英一郎氏

御社グループは、2020年3月に策定された「新生『芝浦機械』長期ビジョン2030」で、グローバル製造業が直面する「気候変動と資源不足」、「人口構造の変化」、「テクノロジーの進歩」等のメガトレンドに卓越した技術革新で応え、社会的課題の解決と企業価値向上を両立することを目ざすと表明されました。

一方、世の中全体に目を転じると、21世紀に入り、わが国の経済活動のなかで比重を大いに高めてきた自動車産業が「100年に1度の変革期」を迎えていると評されています。さらに、この10月、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目ざす」ことを、国は宣言しました。

このように、従来とは相当に異なる事業環境のなかで、ステークホルダーの利害に適切に目配りをしつつ、経営の舵取りを進めていかれることが、御社グループの社会に対する責任の本質であると改めて気づかされます。

技術革新と品質向上、適法調達やグリーン調達、従業員のダイバーシティ実現や安全衛生の拡充、地域社会貢献活動、環境マネジメントの強化は、それぞれが事業活動を進めていく上での礎となるものであり、それを疎かにすべきではありません。本報告書を拝読すると、特定の領域では優れた成果を上げておられることが分かります。

他方で、今後のCSR報告書の拡充の方向性として、「新生『芝浦機械』長期ビジョン2030」で挙げられた取り組み項目に関する進捗報告のウエイトを増やして頂くことを提案申し上げます。本報告書でも、「環境にやさしいプラスチックの開発を支える技術～持続可能な社会に向けた成形機カンパニーの挑戦～」や「レトロフィットで産業の礎を未来へつなぐ～長寿命化を目ざす工作機械カンパニーの使命～」の内容

を大変興味深く拝読しました。脱炭素やサーキュラー経済への移行といった世の中の大きな方向性のなかに、御社グループの新たな事業機会や競争優位の手掛かりが存在しているという記述は大きな説得力となるものです。

2050年カーボンニュートラルに向けて、成形機や工作機械を使う顧客の温室効果ガス排出削減にトータルでどう貢献できるかが事業機会や競争優位の手掛かりになることは確実です。このためには、単にエネルギー効率の高い製品を開発、販売、納入するだけではなく、自ら発電する電力の活用といった創エネや蓄エネの視点やエネルギー効率を配慮した生産計画の立案といった省エネの視点から製品やサービスを提供することが価値を生むでしょう。さらには、3Dプリンター技術の進展とその普及スピードを、どのように事業機会として取り込むかという視点も求められるでしょう。さらに、従来扱ってきた樹脂や金属材料に替わる新材料への対応という視点も不可欠でしょう。

これらは、事業戦略上の課題であり、いままではCSRに関する課題や取り組みとは異なると理解されてきたかもしれません。しかし、「気候変動」というメガトレンドが、世の中のあらゆる活動に影響を与える状況となっているなか、BtoB企業の社会に対する責任は、社会課題を高い感度で捉え、製品を使う顧客のソリューションや価値創出に貢献することに収斂してきています。その意味で、事業ポートフォリオの再構築や「モノ+コト」ビジネスの収益化は、CSRの取り組みそのものだといえるでしょう。

御社は、長期にわたり腰を落ち着けて働く従業員が多いことが特徴だと本報告書のなかで述べられています。こうした伝統が今後も継承されるよう、「新生『芝浦機械』長期ビジョン2030」の実現に邁進され、それが社会に対する責任を果たす姿となることを祈念申し上げます。

社会的責任投資のための企業情報の提供を金融機関に行なっている立場から、本レポートを通じて理解した芝浦機械グループの環境・社会・ガバナンス側面の諸活動ならびにその情報開示のあり方に関し、第三者意見を提出したものです。このコメントは、本レポートが、一般に公正妥当と認められる環境報告書等の作成基準に準拠して正確に測定、算出され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結論を表明するものではありません。

#### 「ご意見を受けて」

足達理事には貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

今回の報告書では、海洋プラスチックごみが社会問題化している中、当社のSDGsへの取り組みの一つとして「環境にやさしいプラスチックの開発を支える技術」について特集でご紹介しました。引き続き、SDGsで示された社会が抱える問題に対し、事業活動を通じて企業としての役割を果たし、持続可能な社会の実現に向けてさらなる貢献をしてまいります。

#### 本書へのご意見・ご感想

〒410-8510 静岡県沼津市大岡2068-3 芝浦機械株式会社 広報・IR部  
TEL(055)926-5030 FAX(055)925-6501 <https://www.shibaura-machine.co.jp/form/inquiry.php?i=i19>

また、ご意見をいただいた「新生『芝浦機械』長期ビジョン2030」に掲げている項目に関する取り組みについて、今後本報告書を通じてステークホルダーの皆様にお伝えできればと考えております。

今後も、私たち芝浦機械グループは、グローバル製造業が直面するメガトレンドに卓越した技術革新で応え、社会的課題の解決と企業価値向上の両立を目ざしてまいります。

芝浦機械株式会社 広報・IR部

## 標語・ポスターの優秀作品のご紹介

芝浦機械グループでは、各月間行事の一環として、標語・ポスターを広く募集しています。  
その中で優秀作に選ばれた作品を紹介します。

### 環境月間

環境保全意識の普及と啓発を図る取り組みとして、標語・ポスターの募集を行なっています。

捨てるより分けて活かしてエコ活動  
未来へ渡そう 豊かな地球



### 品質月間

品質意識の高揚、製品やサービスの質向上への取り組みとして、標語の募集を行なっています。

真心 丁寧 思いやり  
皆で繋ぐ品質リレー

### 交通安全県民運動

交通安全に対する関心と意識向上のための取り組みとして、標語・ポスターの募集を行なっています。

ドラレコに映るあなたの運転・表情  
ゆとりとやさしさ 見えますか



## 芝浦機械株式会社

URL : <https://www.shibaura-machine.co.jp/>

〒410-8510 静岡県沼津市大岡 2068-3

全体のお問い合わせ先

広報・IR部

TEL: (055)926-5030 FAX: (055)925-6501

環境関係のお問い合わせ先

生産センター

TEL: (055)926-5021 FAX: (055)925-6537

本報告書の制作、印刷にあたって、次のような配慮をしています。



SM20135-1000-SZ